

(文部科学省「教育関係共同利用拠点事業」)

令和6年度 教育関係共同利用拠点事業報告書

(拠点名)

**人と海の持続的共存・発展を目指した
On-ship 里海教育共同利用拠点**

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸

令和7年6月

報告書目次

令和 6 年度報告

第1章 演習の取組状況

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習

(1) シラバス	1
(2) 受講者・参加大学	3
(3) 実習風景	4
(4) 受講生によるアンケート評価	7

2. 里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習

(1) シラバス	17
(2) 受講者・参加大学	19
(3) 実習風景	20

3. With/Post コロナ時代を見据えた Virtual 乗船プログラム

(1) シラバス	21
(2) 受講者・参加大学	25
(3) 実習風景	26
(4) 受講生によるアンケート評価	29

4. 受講生の負担金額

34

5. 成績評価

35

第2章 共同利用の実績

他大学等共同利用状況	36
練習船共同利用拠点化における乗船実績	38
運航実績表	41

第3章 共同利用の実施に係る経費

特別経費（教育関係共同利用実施分）	42
-------------------	----

第4章 共同利用に係る検討会議の状況

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会	43
-----------------------------------	----

(参考資料)

1. 教育関係共同利用拠点に関する法令等	
(1) 教育関係共同利用拠点制度について	49
(2) 学校教育法施行規則（抜粋）	50
(3) 教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程	51
(4) 学校教育法施行規則の一部を改正する省令及び教育関係共同利用拠点の 認定等に関する規程の施行について	53
2. 共同利用に関する広島大学の規則	
(1) 練習船豊潮丸運営内規	56
(2) 練習船豊潮丸共同利用細則	59
(3) 練習船豊潮丸の共同利用等に関する申合せ	61
3. 豊潮丸の共同利用の概要	
(1) 取組の趣旨・目的	75
(2) 拠点の認定理由	76
(3) 取組計画	77
(4) 実施体制	78
4. 豊潮丸の概要	82

第1章

演習の取組状況

(1) シラバス

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No.

科目概要記入欄

1. 開設大学	広島大学		開催 方法	■対面（ ）	
				□オンライン（同時・録画・資料提示）	
				□その他（ ）	
	2. 正式科目名 副題	瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里 海総合演習		配当年次	1 年次
			受入学年	1, 2, 3 年	
	学問分野	番号	33	名 称	水産学
3. 担当教員名	中口和光				
4. 単 位 数	2 単位		5. 開講学期	前期集中	
6. 開講期間 曜日・時間	2024 年 8 月 6 日（火）～ 2024 年 8 月 9 日（金） 曜日 : ~ :				
7. 基礎知識の有無	・「基礎知識を必要とする科目」――（ ） ・「基礎知識を必要としない科目」				
8. 募集人数	10 人		9. 選考方法	書類選考	
10. 科目内容・ 授業計画	広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」による乗船実習を経験する中で、里海を育んできた瀬戸内海域の文化・漁業・水産の試験研究を視察するとともに、海洋調査を経験することにより、里海瀬戸内海への理解を深めることを目的とする。 8/6（火）：広島大学生物生産学部附属練習船基地，乗船・出港，漁船操業の視察と船内講義，愛媛県今治市大三島宮浦沖錨泊 8/7（水）：宮浦港入港，伯方塩業大三島工場見学，大三島海事博物館見学，解剖実習（三枚おろし）等 8/8（木）：大三島宮浦港を出港，大崎下島御手洗（潮待ちの港町）視察，海洋観測，船内講義（演習，体験発表会） 8/9（金）：広島県水産海洋技術センター見学，船内清掃，昼食，修了式後下船（12:30 頃） * 寄港先の都合等により，予定に変更が生じる場合がある。				
11. 試験・評価方法	受講態度 50 点，発表とレポート 50 点で評価する。				
12. 別途負担費用	● 授業期間中の食事代*，シーツ洗濯代として 5,000 円程度を徴収します。 *2 日目昼食代は含まれません（上陸後各自での昼食となります）。 ● 集合解散場所の事前事後の交通費は自己負担となります。 ● 開催 10 日前以降のキャンセルについては乗船期間中の船内食事代全額を負担していただきます。 ● 実習にかかるその他経費についてはこちらで負担します。				

13. その他特記事項	● 集合時刻：開催当日（8月6日）は，昼食を済ませておいてください 13:00 までに広島大学生物生産学部附属練習船基地（呉市宝町 7-4） ● 持参物：医療保険証，着替え，運動靴（甲板作業はスリッパ類不可），雨具（傘），作業着上下（長袖，長ズボン），筆記用具，洗面具，タオル類等（長靴とカッパは貸与します。船内での洗濯可），釣り具（持っていれば） ● 傷害保険：事前に学生教育研究災害傷害保険（財団法人日本国際教育支援協会）相当の傷害保険に加入しておいてください。 ● やむなく欠席する場合は，開催 10 日前までに広島大学生物学系支援室(学士課程担当)まで申し出てください。直前にやむなく欠席・遅刻する場合も，必ず連絡してください。 ● 豊潮丸は全面禁煙です。船内での喫煙は認められません。 ● 本授業科目は，広島大学生物生産学部，広島大学他学部，他大学学生のために開講されるものです。 ● https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp/（豊潮丸ホームページ） 【問合せ・連絡先】（E-mail：★を@に変換してください） ● 広島大学生物学系支援室（学士課程担当） 〒739-8528 東広島市鏡山 1-4-4 TEL：082-424-4323 E-mail：sei-gaku-sien★office.hiroshima-u.ac.jp ● 広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸 〒737-0029 呉市宝町 7-4 TEL：080-1926-4877, 090-3022-4347 E-mail：toyoshio★hiroshima-u.ac.jp		
14. 社会人受講	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。

(2) 受講者・参加大学

受講者名簿(男性 3名 女性 0名)

No	大学名	所属	学年	性別
1	広島大学	生物生産学部	B2	男
2	広島大学	生物生産学部	B2	男
3	広島大学	生物生産学部	B1	男

(3) 実習風景

2024年8月6日から9日に洋上里海総合演習航海を実施しました。

1日目は呉港を出港し、愛媛県大三島沖での釣り実習。釣れた魚は絞め方から血抜き、下処理の講習をしました。

例年この航海に参加する学生は釣りが好きな子が多く、今年の参加者も投錨後も釣りをしていました。

2日目、大三島宮浦港に入港、午前中に伯方の塩工場、海事博物館の見学。午後からは自由行動。

3日目、宮浦港を出港し海洋観測を行いました。普段豊潮丸の実習で行っている観測と同じものを実施しましたが、他の実習と比べ説明の時間を多くとることができますのでこの航海が一番長く説明しています。海洋観測後は、再び釣り実習です。

4日目、最終日は呉港に入港し大和ミュージアムの見学。その後修了式を行い下船。

船酔いに苦しんだ参加者もありましたが無事航海を終了することが出来ました。

またの乗船お待ちしております。



第1章 演習の取組状況

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習



第1章 演習の取組状況

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習



(4) 受講生によるアンケート評価

応答の概要

応答

3



平均スコア

0



平均時間

07:33



1. あなたはどのようにしてこの科目があることを知りましたか。（複数回答可）（0 点数）

- 教育ネットワーク中国で知った 2
- 大学で勧められた 0
- 友人知人から知らされた 2
- その他 0



2. 質問1で『その他』と回答された方はその内容を書いてください。（0 点数）

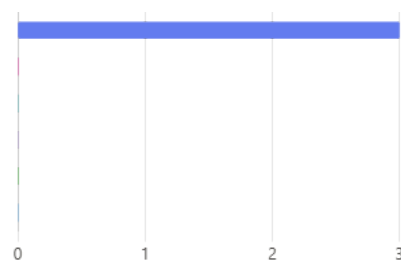
0 件の回答が送信されました

0
応答



3. なぜこの科目を受講しようと思いましたか。（複数回答可）（0 点数）

- 内容に強い興味・関心があった 3
- なんとなく受けてみようと思った 0
- 友人知人、大学の勧めがあった 0
- 単位習得に都合がよかった 0
- 釣りができると思った 0
- その他 0



4. 質問3で『その他』と回答された方はその内容を書いてください。（0 点数）

0 件の回答が送信されました

0
応答



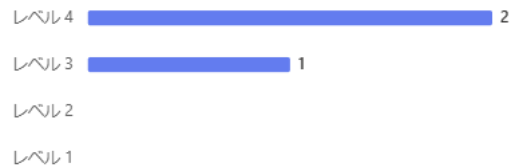
5. 受講してみて魚のさばき方の印象はいかがでしたか？

★★★★良かった、興味深かった
★★★★まあまあ良かった
★★あまり面白くなかった
★まったく面白くなかった
(0 点数)



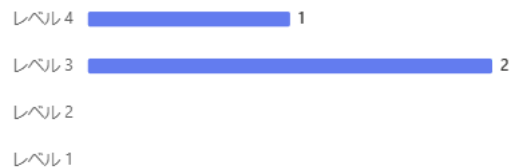
6. 伯方塩業大三島工場の見学はいかがでしたか？

★★★★良かった、興味深かった
★★★★まあまあ良かった
★★あまり面白くなかった
★まったく面白くなかった
(0 点数)



7. 大三島海事博物館の見学はいかがでしたか？

★★★★良かった、興味深かった
★★★★まあまあ良かった
★★あまり面白くなかった
★まったく面白くなかった
(0 点数)



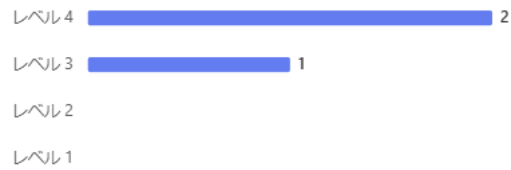
8. 大崎下島御手洗の町並み視察はいかがでしたか？

★★★★良かった、興味深かった
 ★★★まあまあ良かった
 ★★あまり面白くなかった
 ★まったく面白くなかった
 (0 点数)



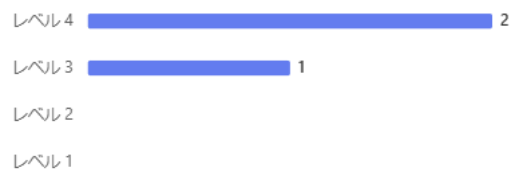
9. ST-1,2海洋観測とその分析についてはいかがでしたか？

★★★★良かった、興味深かった
 ★★★まあまあ良かった
 ★★あまり面白くなかった
 ★まったく面白くなかった
 (0 点数)



10. 大和ミュージアムの見学はいかがでしたか？

★★★★良かった、興味深かった
 ★★★まあまあ良かった
 ★★あまり面白くなかった
 ★まったく面白くなかった
 (0 点数)

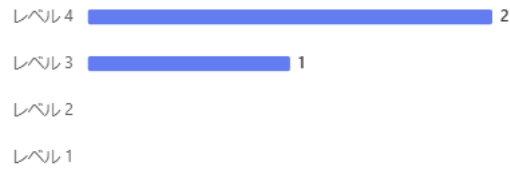


11. 釣り、生物採集はいかがでしたか？

★★★★良かった、興味深かった
★★★★まあまあ良かった
★★あまり面白くなかった
★まったく面白くなかった (0 点数)

3.67

平均評価



12. 記述したいことがあれば記述してください。改善点などもあれば書いてください。(0 点数)

0

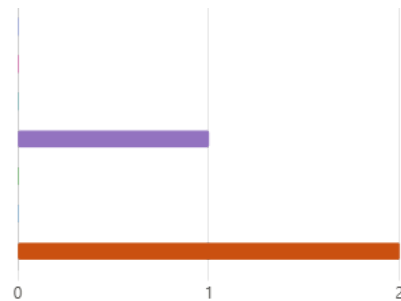
応答

0 件の回答が送信されました



13. 最も良かったと思う内容を一つ選択してください。(0 点数)

● 魚のさばき方	0
● 伯方塩業大三島工場の見学	0
● 大三島海事博物館の見学	0
● 大崎下島御手洗の町並み視察	1
● ST-1,2海洋観測とその分析	0
● 大和ミュージアムの見学	0
● 釣り、生物採集	2



14. 質問13.の理由を書いてください。(0 点数)

3

応答

最新の回答

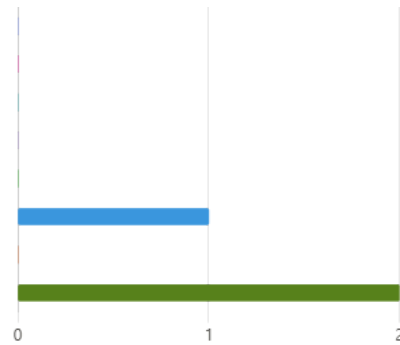
"釣りに関しては、多くの魚を釣ることができたから。また、プランクトンネットや海底の砂泥の... "

"江戸時代辺りの風情ある町並みを見学することができたから。"

"自分の趣味でもある釣りを普段なかなかできないポイントで行えたこと。"

15. 最も悪いと感じたのはどれですか？あれば一つ選択してください。(0 点数)

● 魚のさばき方	0
● 伯方塩業大三島工場の見学	0
● 大三島海事博物館の見学	0
● 大崎下島御手洗の町並み視察	0
● ST-1,2海洋観測とその分析	0
● 大和ミュージアムの見学	1
● 釣り、生物採集	0
● 特になし	2



16. 質問15の理由を書いてください。(0 点数)

3
応答

最新の回答

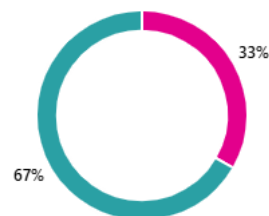
"軍事的なことにはあまり興味をそそられなかったから。"

"全て楽しかったため。"

"講義全体を通して楽しむことができました。"

17. 参加費についてどうでしたか。(0 点数)

● 高い	0
● 丁度良い	1
● 安い	2
● よくわからない	0



18. 質問17で『高い』、『安い』と回答された方はいくら位だったら良いか書いてください。(0 点数)

0
応答

0 件の回答が送信されました



19. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。

【はじめの自己紹介】

★★★★親切で的確であった
★★★★まあまあ良かった
★★あまり良くなかった/有効でなかった
★全くよくなかった
(0 点数)



20. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。

【実習内容についての説明】

★★★★親切で的確であった
★★★★まあまあ良かった
★★あまり良くなかった/有効でなかった
★全くよくなかった
(0 点数)



21. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。

【実習のスケジュール組み】

★★★★親切で的確であった
★★★★まあまあ良かった
★★あまり良くなかった/有効でなかった
★全くよくなかった
(0 点数)



22. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。

【豊潮丸の船員の説明、指示、指導】

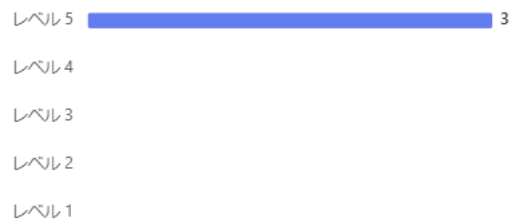
★★★★親切で的確であった
★★★★まあまあ良かった
★★あまり良くなかった/有効でなかった
★全くよくなかった
(0 点数)



23. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。

【作成すべきレポートの内容や量、サポート】

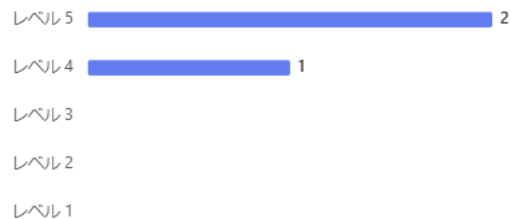
★★★★親切で的確であった
★★★★まあまあ良かった
★★あまり良くなかった/有効でなかった
★全くよくなかった
(0 点数)



24. 次の諸点（企画）について感想をお伺いします。

【海洋観測時採集生物のソーティング作業】

★★★★親切で的確であった
★★★★まあまあ良かった
★★あまり良くなかった/有効でなかった
★全くよくなかった (0 点数)



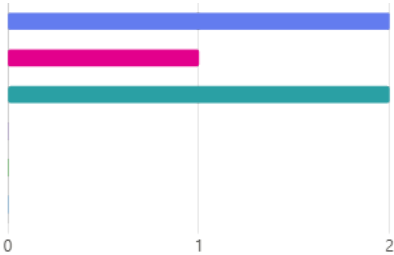
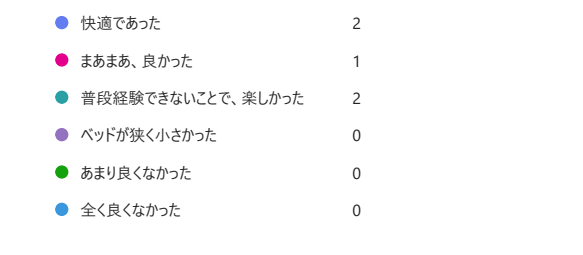
25. 質問19.～24.において記述することがあれば書いてください。(0 点数)



0 件の回答が送信されました



26. 豊潮丸に乗船してどうでしたか、船内生活は快適でしたか。(複数回答可) (0 点数)



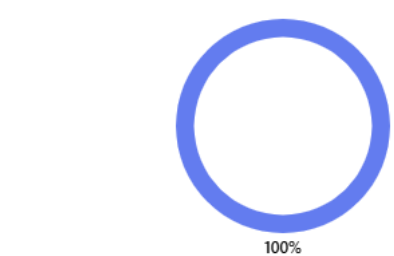
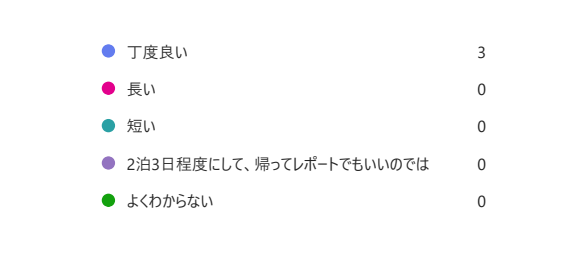
27. 質問26.において、その他記述することがあれば書いてください。(0 点数)



0 件の回答が送信されました



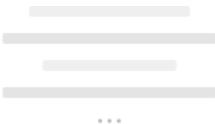
28. 3泊4日の日程はどうですか。(0 点数)



29. 質問28.で『長い』、『短い』と回答された方は、何日程度であれば良いと思いますか。(0 点数)

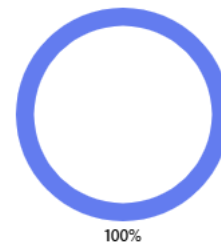


0 件の回答が送信されました



30. 全体として今回のこの科目の感想はどうですか。(0 点数)

● 良かった、興味深かった	3
● まあまあ、良かった	0
● あまりおもしろくなかった	0
● 全くおもしろくなかった	0



31. 質問30.において記述することがあれば書いてください。(0 点数)

0
応答

0 件の回答が送信されました



32. こういった科目を来年度以降も開講したほうが良いと思いますか。(0 点数)

● そう思う	3
● 別に思わない	0
● どちらでも良い	0
● 内容を大幅に変えた方が良い	0



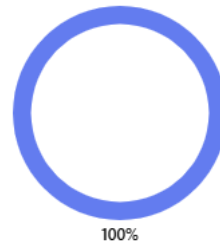
33. 後輩には、今回の科目の受講をすすめますか。(0 点数)

● 大いにすすめる	3
● まあまあすすめる	0
● 特にすすめない	0
● おすすめない	0



34. あなたがまた乗船するとして、どのような実習内容を望みますか。(0 点数)

● 今のままで良い 3
● 変えた方がよい 0



35. 質問34.で『変えた方がよい』と回答した方は具体的に理由を書いてください。(0 点数)

0
応答

0 件の回答が送信されました



(1) シラバス

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No.

科目概要記入欄

1. 開設大学	広島大学 生物生産学部		開催 方法	☒ 対面（附属練習船豊潮丸）	
				☐ オンライン（同時・録画・資料提示）	
				☐ その他（ ）	
	2. 正式科目名 副題	里海再生のための陸～川～海パート ナーシップ策に関する演習 《練習船豊潮丸で学ぶ広島湾の SDGs》		配当年次	1～4
			受入学年	1～4	
	学問分野	番号	33	名 称	農学(水産学)
3. 担当教員名	斉藤英俊				
4. 単 位 数	1 単位	5. 開講学期	後期集中		
6. 開講期間 曜日・時間	2024 年 12 月 12 日（木）～ 2024 年 12 月 13 日（金）				
7. 基礎知識の有無	・「基礎知識を必要としない科目」				
8. 募集人数	10 人	9. 選考方法	書類選考		
10. 科目内容・ 授業計画	広島大学生物生産学部附属練習船・豊潮丸は、令和4年度より第三期教育関係共同利用拠点に認定され、学外に向け共同利用の機会を提供しています。新たに提供する本科目では、練習船豊潮丸の1泊2日の広島湾航海への乗船を通じて、森・川・海のつながりと恵みに関する学びを深めます。森は自然林の残る宮島、川は太田川、海は阿多田島という代表的なフィールドを巡ります。 本科目での SDGs 学習ポイントは以下の3つです。 ・海洋水質調査から豊かな栄養分が海へと供給されるプロセスを理解 ・牡蠣養殖とカタクチイワシ漁業を通じて栄養豊かな水が育む水産資源を理解 ・釣りによる魚類採集調査から広島湾の魚類生態系の実態を理解 これらの複合的な体験学習を通じて、里海広島湾における森・川・海のつながりの大切さを実感として理解してもらいます。 実施内容（航海予定） 12/12(木)9:00 練習船基地（呉）集合、10:00 乗船・出港、漁船操業の視察と船内講義、11:00 水質調査（太田川河口付近）、昼食、12:30 牡蠣養殖の学習、15:30 宮島入港、自然観察散策、夕食、釣り調査、レポート作成 12/13(金)8:00 宮島港出港、9:00 水質調査（宮島沖）、カタクチイワシ漁操業視察、昼食、11:00 釣り調査、13:00 船内講義、レポート発表、船内清掃、15:30 修了式（呉基地）、解散 * 寄港先の都合、感染症の拡大状況等により、予定の変更・中止が生じる場合があります。				
11. 試験・評価方法	受講態度 50 点、発表とレポート 50 点で評価する。				
12. 別途負担費用	約 3,000 円程度（12 月 12 日昼食～13 日昼食まで毎食分、シーツ洗濯代など） ● 集合解散場所の事前事後の交通費は自己負担となります。 ● 開催 10 日前以降のキャンセルについては乗船期間中の船内食事代全額を負担していただきます。				

13. その他特記事項	● 事前に学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険（財団法人日本国際教育支援協会）に加入しておいてください。 ● 感染症防止対策として、以下の3点は厳守していただきます。 1. 演習開始直近1週間、毎日検温を行い体温が37.5℃を超えていないこと。 2. 1週間分の健康確認・行動記録表を作成し、演習に持参すること。 3. 演習当日の体温が37.5℃以下であること。 ● 集合時間（別途お知らせします）を厳守してください。欠員があっても定刻に出港します。 ● 集合・解散場所：広島大学生物生産学部 附属練習船基地 〒737-0029 広島県呉市宝町 7-4（電話 0823-23-4853） JR 広島駅から JR 呉駅約 35 分（快速），JR 呉駅より徒歩約 15 分 練習船基地 位置図 https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp/kiti/kitimap.html ● 各自持参するもの 医療保険証，運動靴，船酔止薬，作業着（長袖，長ズボン，帽子），ノート PC（必須），筆記用具，洗面具，タオル，入浴用品，身の回り品等 ※ショートパンツ，ランニングシャツ，サンダル，スリッパ等では作業できません。 ※長靴，雨具は貸与します。 ※タオル，入浴用品は船内に備えていません。各自持参して下さい。 ● やむなく辞退する場合は，速やかに所属大学担当部署及び広島大学生物学系総括支援室に申し出て下さい。 ● 問い合わせ先：広島大学生物学系総括支援室（学士課程担当） 〒739-8528 東広島市鏡山 1-4-4 TEL：082-424-4323 E-mail：sei-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp ● 履修希望学生に対する連絡 履修決定者には担当者より履修願に記載されたメールアドレス宛に電子メールで連絡があります。履修希望届を提出した学生は，担当者のメールアドレス（sakai41@hiroshima-u.ac.jp）からの電子メールを受信できるように設定し，電子メールを定期的に確認してください。また，メールアドレスを変更した場合は，速やかに所属大学担当部署と広島大学生物学系総括支援室に必ず連絡してください。 *感染症の拡大状況等により，大幅な計画変更あるいは実習中止となる可能性があります。		
14. 社会人受講	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。

(2) 受講者・参加大学

受講者名簿(男性9名 女性 2名)

No	大学名	所属	学年	性別
1	広島大学	統合生命科学研究科	M2	男
2	広島大学	統合生命科学研究科	M2	男
3	広島大学	統合生命科学研究科	M1	男
4	広島大学	生物生産学部	B4	男
5	広島大学	生物生産学部	B3	男
6	広島大学	生物生産学部	B3	男
7	広島大学	生物生産学部	B3	男
8	広島大学	生物生産学部	B2	女
9	広島大学	生物生産学部	B2	男
10	広島大学	生物生産学部	B1	女
11	広島大学	生物生産学部	研究生	男

(3) 実習風景

2024年12月12日～13日の2日間。「練習船豊潮丸で学ぶ広島湾のSDGs」航海を実施しました。

呉湾の見学、説明訓練、船内講義を行い、宮島に向かう道中では牡蠣筏を見学しました。

宮島には作業艇を使って上陸です。水族館見学等をして、作業艇で豊潮丸へ帰船。

夕方から日没まで、投錨後から就寝まで、釣りによる魚類調査を行いました。

2日目はラジオ体操から始まりました。抜錨し調査ポイントに移動したら魚類調査です。

昼頃には終了し片付け、船内大掃除から入港になりました。

忙しい2日間でしたが、いい経験になったかと思います。



(1) シラバス

2024年度後期 e-STARTプログラム コース5/e-START Program course 5

所属・職名 School, Job Title	大学院統合生命科学研究科・生物資源科学プログラム Graduate School of Integrated Sciences for Life
氏名 Name	若林香織 (准教授) Kaori Wakabayashi (Assoc. Prof.)
メールアドレス Email address	kaoriw@hiroshima-u.ac.jp

① コーステーマ / Theme of the course			
海洋観測をとおして考える海洋水産資源の持続的利用 Sustainable use of marine fishery resources: studies through the oceanographic observations			
② 教養教育科目/Liberal Arts Subject			
☒ オンライン国際ゼミ A (1単位) /Online International Seminar A (1credit) ☐ オンライン国際ゼミ B (2単位) / Online International Seminar B (2credit)			
③ コース開始日 / Course Start Date			
☐ 第3ターム・第4ターム (2024年12月-2025年2月5日) ☒ 学年末休業期間 (2025年2月6日-2025年3月31日)			
④ 共同実施先の大学名, 国・地域名 (2大学/国・地域以上ある場合は, 欄を追加してください) Overseas university(ies) to jointly conduct the course – add cells if needed			
国・地域名 1 Country/region	ペルー・リマ Peru / Lima	大学名 1 Name of university	サンマルコス大学 National University of San Marcos
国・地域名 2 Country/region	インドネシア・スラバヤ Indonesia / Surabaya	大学名 2 Name of university	アイルランガ大学 Airlangga University
国・地域名 3 Country/region	ベトナム・カントー Vietnam/ Can Tho	大学名 3 Name of university	カントー大学 Can Tho University
国・地域名 4 Country/region	台湾・基隆 Taiwan / Keelung	大学名 4 Name of university	臺灣海洋大学 National Taiwan Ocean University
⑤ コースでの使用言語/ Language to be used in the course		英語 English	
⑥ 使用予定のオンラインツール /Communication platform used in the course		Microsoft Teams	

⑦ 対象学生等/Eligibility ※原則、最終セメスター学生は単位付与のタイミング上、「単位不要」での登録となる。 ※大学院生は学部の科目の単位付与可能	☐学部生のみ/undergraduate student only ☐大学院生のみ/graduate student only ☒学部生・大学院生どちらも/Both undergraduate and graduate student ☐教職員の見学可/ the visits are available for faculty and staff
⑧ 曜日・時間/Day and Time 現時点で分かる情報をご提供ください	2025年2月28日～2025年3月21日 From 28 February 2025 to 21 March 2025
⑨ 募集人数/Capacity	最小開講人数：4名/Minimum number of participants 4 最大募集人数：10名/Maximum number of participants 10
⑩ 募集終了日 / Application due date	2025年 1月 17日
⑪ 持っておくと望ましい背景知識 Recommended background knowledge ・海洋生物学や水産学に対する興味 Interest in Marine Biology, Fishery Biology, and Aquaculture Sciences ・生物学に関する基礎知識 Basic knowledge of Biology ・持続可能な開発目標14「海の豊かさを守ろう」の内容 Targets of the Sustainable Development Goal No. 14 “Life Below Water”	
⑫ コース概要/ Outline of the course 水産資源への依存度が高い国々の学生が集い、海洋水産資源に関する基礎的な知識を学び、本学が所有する練習船豊潮丸を使って漁業や海洋観測の実験を現場またはオンラインで体験する。講義と現場体験から学んだことをグループワークによって議論しながら整理する。さらに、水産資源の持続利用に関するいくつかの課題について、グループワークによって探求する。 Students from five different countries that highly rely on the exploitation of fishery resources will participate in this course to learn the basic knowledge of marine fishery resources and to experience the fishery activities in a practice on the training vessel TOYOSHIO MARU onsite/online. Students will exchange their understandings from lectures and practice and opinions with other participants. They will then discuss issues related to the sustainable use of marine fishery resources.	
⑬ コース内容詳細案（必要に応じ補足資料を添付してください） Detailed plan of the course (please attach supplementary documents if necessary)	
(1) 講義 Plan of specialized lecture	

時期/Period : Around 2月/month 28日/day 頃 ～ 3月/month 10日/day 頃

内容/Details :

- ① コーステーマに関連する数回の講義（各15－30分間）をオンデマンド形式で実施する。講義は参加大学に所属する教員による。（2025年2月28日～3月10日）

Several lectures (15–30 min for each session) related to the course theme will be given on demand. Lecturers will be the teaching staff belonging to each participating university. (28 February to 10 March 2024)

- ② 洋上演習を通じて漁業や海洋生物に関する知識を深める。広島大学の学生は広島大学附属練習船「豊潮丸」に乗船し、現場で演習に参加する（演習経費2,062円を徴収します；呉市の豊潮丸基地に現地集合・解散）。海外大学の学生はオンラインで演習に参加できるよう、Microsoft Teamsを利用してリアルタイムで配信する。演習講師は沖縄科学技術大学院大学より招聘する。また、豊潮丸の過去の演習を収録したVR動画も活用する。詳細は「その他」を参照。（2025年3月5日～7日）

This marine practice will provide basic knowledge of fishery activities and marine organisms. Students from Hiroshima University will have an actual experience of using fishing gears and other oceanographic observation tools on the training vessel TOYOSHIO MARU (a cruise fee of 2,062 yen will be collected). The marine practice will be broadcasted for the students from overseas using Microsoft Teams. Instructor of this practice will be invited from Okinawa Institute of Science and Technology (OIST). VR 360 videos of the previous practices conducted on the training vessel will also be used. See “Others” for more details of the cruise. (5 to 7 March 2025)

時間数合計/Total hours : 10 時間/hours

(2) グループワーク Plan of group work

時期/Period : Around 3月/month 11日/day 頃 ～ 3月/month 21日/day 頃

内容/Details :

5つの大学からの参加者が混合するように複数のグループを作り（各グループ5名程度）、講義や演習をととして学習したことをグループ内で共有する。コーステーマに関連する課題を一つ掲げ、Microsoft Teamsを利用してグループ内で議論し、発表を準備する。

Participants from five universities will be mixed and distributed into several groups (ca. 5 students in a group). They will exchange their understandings from lectures and practice and opinions with other group members. Each group will select one subject related to the course theme and discuss the subject to prepare a presentation via Microsoft Teams.

時間数合計/Total hours : 7時間/hours

(3) グループ発表 Plan of final group presentation

時期/Period : Around 3月/month 19日/day 頃 ~ 3月/month 21日/day 頃

内容/Details :

各グループが、掲げた課題について整理した問題点や解決策などを発表する。発表は20分程度で準備し、Microsoft Teamsなどを通じてオンラインで実施する。

Each group will give a 20 min talk containing the topic orientation, problems, and the ideas of solution. The presentations will be done online using Microsoft Teams.

時間数合計/Total hours : 3時間/hours

⑭ その他/ Others

・広島大学の学生は1泊2日の瀬戸内海での洋上演習に参加します。演習経費は一人2,062円（食費1,600円、シーツクリーニング代462円）です。また、豊潮丸基地までの往復交通費は各自負担となります。現時点での演習日程は以下の通りです。

Students from Hiroshima University will join a 2-day cruise in the Seto Inland Sea. Cruise fee is 2,062 yen per person. Travel costs to and from the TOYOSHIO MARU Base will be borne by each student. Cruise plan at this moment is as follow:

1日目 Day 1 (5 or 6 March 2025)

12:30 呉市の練習船豊潮丸基地に集合 Gather at the base of training vessel in Kure

13:00 出港 Leave the Port

14:00 広島大学学生間の交流 Introduction

16:00 夕食 Dinner

17:00 演習準備・試験調査 Preparation and preliminary practice

2日目 Day 2 (6 or 7 March 2025)

7:00 朝食 Breakfast

8:00 演習① Practice 1

9:00 船内見学 Tour in the vessel

11:00 昼食 Lunch

12:00 演習② Practice 2

15:00 帰港 Return to the Port

解散 End

・海外大学の学生は、演習①または演習②にオンラインで参加する。Students from the overseas will join either Practice 1 or Practice 2 through Microsoft Teams.

(2) 受講者・参加大学

乗船者：受講者名簿(男性 3名 女性 3名)

No	大学名	所属	学年	性別
1	広島大学	統合生命科学研究科	M1	女
2	広島大学	統合生命科学研究科	M1	女
3	広島大学	人間社会科学研究科	M1	男
4	広島大学	人間社会科学研究科	研究生	男
5	広島大学	理学部	B2	女
6	広島大学	総合科学部	短期留学	男

オンライン受講者数

No	大学名	国	人数
1	アイルランガ大学	インドネシア	8
2	国立台湾海洋大学	台湾	11
3	国立サン・マルコス大学	ペルー	9
4	国立カントー大学	ベトナム	6

(3) 実習風景

It was an honour to be part of this international cruise through global exchange collaborative research and presentations together with expertise overseas researchers and also students. During this cruise, I had the privilege of assisting as a teaching assistant (TA) in water sampling sessions using Niskin bottles attached to a CTD (Conductivity, Temperature, Depth) instrument which monitors environmental parameters at various sea depths. Following the sampling, Dr. Gustavo Sanchez from Okinawa Institute of Science and Technology demonstrated the sample preparation for Environmental DNA (eDNA) analysis onboard using the collected seawater samples. In my opinion, this provided an excellent opportunity for students to gain hands-on exposure to efficient and advanced research techniques. Additionally, we carried out trawling activities and collected numerous biological samples, which were later identified based on morphological characteristics. Serving as a TA for the first time was a valuable experience that allowed me to strengthen my interpersonal and soft skills through international networking, as well as enhance my research capabilities. I would like to extend my heartfelt thanks to the crew and staff of the Toyoshio Maru for their dedicated assistance and for ensuring the smooth and successful operation of the program. (Ahmad Safuan Bin Sallehuddin, D1)

海外の専門家や学生とともに国際交流や発表、そしてこの洋上実習に参加できたことを光栄に思います。今回の洋上実習では、ティーチングアシスタント(TA)として、様々な水深の環境パラメータをモニタリングするCTD(電気伝導度、温度、深度を測定する装置)にニスキンボトルを取り付け、採水をお手伝いしました。沖縄科学技術大学院大学のグスタボ・サンチェス博士が、この海水試料を用いて環境DNA(eDNA)分析のための試料調製のデモンストレーションを船内で行いました。この実習は、学生が高度な研究技術に実際に触れる絶好の機会を提供していると思いました。さらに、底曳網で生物試料を収集し、形態学的特徴に基づいて同定する技術も学びました。初めてTAを経験し、国際的なネットワークを通じて人間関係やソフトスキルを強化し、さらに研究能力を高めることができた貴重な経験でした。(アハマド・サフアン・ビン・サレフディン、博士1年)

On March 6-7, I had the opportunity to join a cruise as part of the e-START Program titled “Study of the sustainable use of marine fishery resources through the oceanographic observations” as a student. Participating in this course was a truly elevating experience. The calm sea and pleasant climate made it an ideal day for fieldwork and observation. The vessel was well-prepared for our research activities, providing a hands-on learning experience that complemented our classroom studies. We collected biological samples from the bottom and surface of the sea and observed those under the instruction of Dr. Kaori Wakabayashi. After collecting the water

sample from different depths using the Niskin bottles equipped with CTD, we learned about extracting eDNA from a guest lecturer, Dr. Gustavo Sanchez. Their clear guidance and willingness to share their expertise made the learning experience smooth, engaging, and deeply informative. The crew members were also supportive and knowledgeable as always—they patiently guided us in using the equipment, shared insights about marine operations, and ensured our safety throughout the journey. Their cooperation and professionalism created a smooth and enriching environment for learning. I am truly grateful for this enriching and practical learning experience.

(Mst. Afia Sultana, M1)

3月6～7日、e-STARTプログラム「海洋観測をとおして考える海洋水産資源の持続的利用」に学生として参加しました。このコースに参加したことは、本当に素晴らしい経験でした。穏やかな海と快適な気候は、フィールドワークや観察に理想的な日でした。船は私たちの実習のために十分に準備され、教室で学んだことを補完する実践的な学習体験を提供してくれました。若林先生の指導のもと、海底および海面から生物試料を採取し、観察しました。また、招聘講師のグスタボ・サンチェス博士からeDNAの抽出のための採水方法について学びました。彼らの明確なガイダンスと専門知識を共有する意欲は、洋上実習を深く有益なものにしました。乗組員たちもいつものように協力的で知識が豊富でした。彼らは私たちに装置の使い方を根気よく指導し、海上作業についての見識を共有し、私たちの安全を確保しました。彼らの協力と専門性によって豊かな学習環境が作られていると思いました。この充実した実践的な学びに心から感謝しています。(アフィア・スルタナ、修士1年)



第1章 演習の取組状況

3. With/Postコロナ時代を見据えたVirtual乗船プログラム



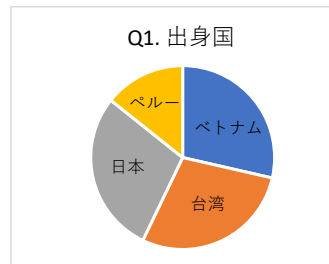
(4) 受講生によるアンケート評価

「e-STARTプログラム コース9」アンケート

※「Virtual乗船プログラム」を含むコース全体のアンケートです。

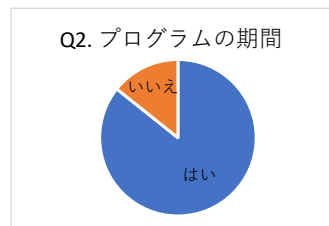
Q1. 出身はどこですか？

ベトナム	2
台湾	2
日本	2
ペルー	1



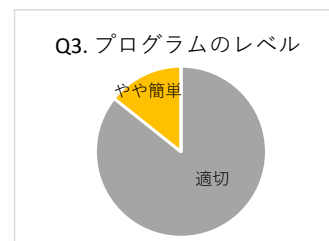
Q2. プログラムの期間は適切でしたか？

はい	6
いいえ	1



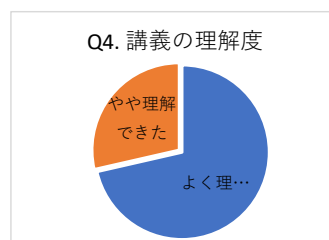
Q3. プログラムのレベルはどうでしたか？

とても簡単	0
やや簡単	0
適切	6
やや難しい	1
とても難しい	0



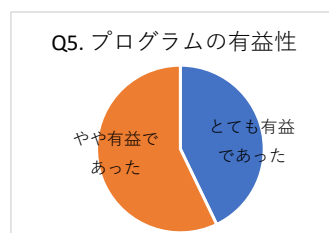
Q4. 講義は理解できましたか？

よく理解できた	5
やや理解できた	2
どちらでもない	0
あまり理解できなかった	0



Q5. プログラムは有益でしたか？

とても有益であった	3
やや有益であった	4
どちらでもない	0
あまり有益ではなかった	0



第1章 演習の取組状況

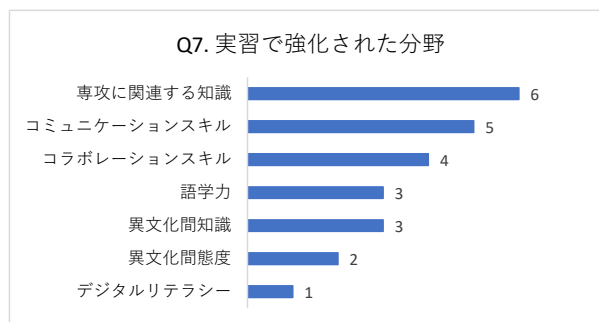
3. With/Postコロナ時代を見据えたVirtual乗船プログラム

Q6. Q5の理由を教えてください。

- コーディネーターが新しいことを教えてくれて、皆からたくさんのことを学びました。
- たくさんの外国の方と話せました。先生方が助けてくれたので、不安なくコミュニケーションをとれました。
また、漁の方法や瀬戸内海の状態など、海について学ぶことができました。
- 新しいことや機械について学ぶことができました。
- 様々な国の人と交流するいい機会になりました。
- 理論的な知識だけでなく、乗船での実践的な経験やチームマネジメントスキルなど多くのことを学びました。
様々な国の人と会うことができて良かったです。
- 自身の研究分野に対する視野が広がりました。
- 海洋環境モニタリングの実践的な手技を観察でき、他国の学生と協力することができました。
国際的な視野が広がり、外国語でのコミュニケーション能力が向上しました。

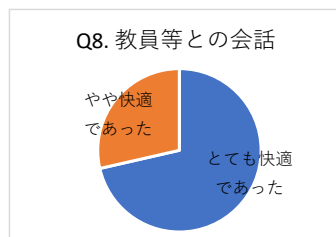
Q7. どのようなスキルを習得されましたか？3つまで選択してください。

専攻に関連する知識	6
コミュニケーションスキル	5
コラボレーションスキル	4
語学力	3
異文化間知識	3
異文化間態度	2
デジタルリテラシー	1
(※3つ以上選択の場合あり)	



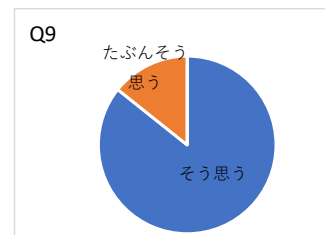
Q8. 教員やスタッフとの会話は快適でしたか？

とても快適であった	5
やや快適であった	2
どちらでもない	0
あまり快適でなかった	0



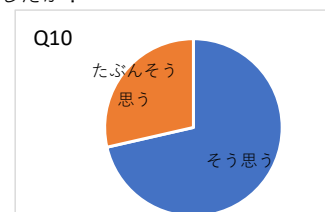
Q9. プログラムに参加して、国際交流や留学に対する考え方が変わったと思いますか？

そう思う	6
たぶんそう思う	1
あまりそう思わない	0
そう思わない	0



Q10. プログラムに参加して、第二言語や専門科目をもっと勉強したいと思うようになりましたか？

そう思う	5
たぶんそう思う	2
あまりそう思わない	0
そう思わない	0

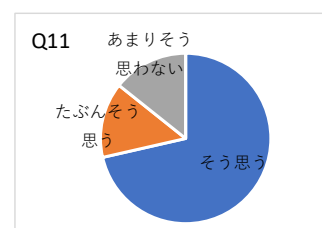


第1章 演習の取組状況

3. With/Postコロナ時代を見据えたVirtual乗船プログラム

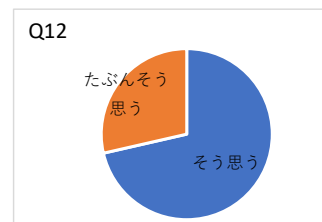
Q11. 文化の違いや類似点を意識し、敏感に感じるようになりましたか？

そう思う	5
たぶんそう思う	1
あまりそう思わない	1
そう思わない	0



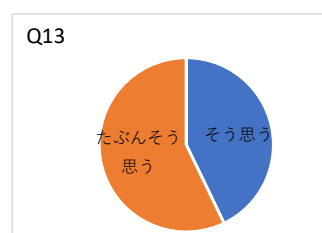
Q12. 母国語が異なる人々とのコミュニケーションに自信が持てるようになりましたか？

そう思う	5
たぶんそう思う	2
あまりそう思わない	0
そう思わない	0



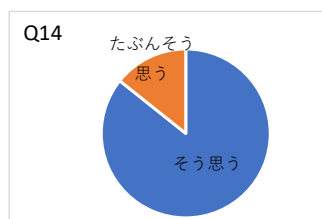
Q13. 自身の文化や個人的な視点をよりよく理解できるようになりましたか？

そう思う	3
たぶんそう思う	4
あまりそう思わない	0
そう思わない	0



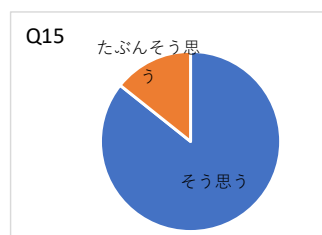
Q14. 他の国に勉強したり旅行したりすることに興味がわきましたか？

そう思う	6
たぶんそう思う	1
あまりそう思わない	0
そう思わない	0



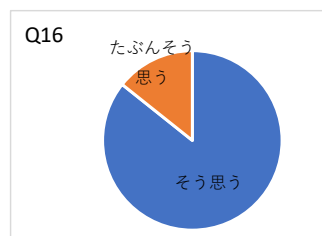
Q15. 協定校の国のニュースや出来事を把握しておくことに興味がわきましたか？

そう思う	6
たぶんそう思う	1
あまりそう思わない	0
そう思わない	0



Q16. グローバルまたは国際的な問題について学ぶことに興味がわきましたか？

そう思う	6
たぶんそう思う	1
あまりそう思わない	0
そう思わない	0

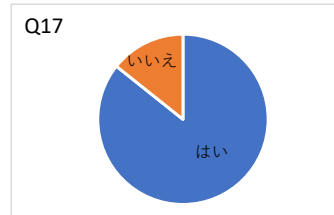


第1章 演習の取組状況

3. With/Postコロナ時代を見据えたVirtual乗船プログラム

Q17. 同じ国籍、文化、宗教、社会経済的背景を持つ人々よりも、多文化環境で働くことに興味がありますか？

はい	6
いいえ	1

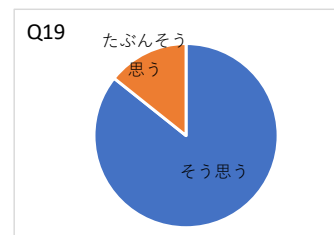


Q18. Q17の理由を教えてください。

- 自分と同じアイデンティティの人からではなく、異なる人からアイデアが生まれることを知ることで、異なる視点に気づくことができるから。
- 日本人同士のコミュニケーションでは、適当なことを言っても通じていると感じますが、外国の方では、会話に集中し、相手のことを理解するよう努めることで、真のコミュニケーションができたと感じました。その感覚を大切にしていきたいと思いました。
- 異なる国籍の人と働くことで、自分の国とは違う視野や専門知識を広げられると思います。さらに、様々な国の文化や宗教について学ぶことができます。
- 異なる文化を持つ人々について、より深く理解できるからです。
- 多様性が大好きだからです。
- 異文化について、たくさんの新しく興味深いことを学ぶことができるからです。
- 文化や言語の違いで他の人が混乱しないか少し不安で、消極的でした。外国の方と一緒に過ごすのはとても楽しかったので、このような機会をもっと増やしたいと考えています。

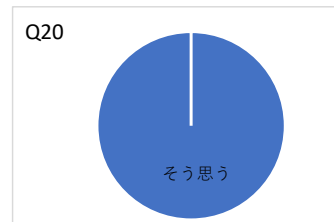
Q19. 国際協働は終わっても、協定校の学生とは連絡を取り合うことになりそうですか？

そう思う	6
たぶんそう思う	1
あまりそう思わない	0
そう思わない	0



Q20. このコースを友人や後輩に勧めますか？

そう思う	7
たぶんそう思う	0
あまりそう思わない	0
そう思わない	0



Q21. プログラムに参加する前は、このプログラムに何を期待していましたか？

また、プログラムはどの程度期待に応えましたか？

- 言語の問題で少し難しいと思っていましたが、コミュニケーションとチームでの協働は本当に楽しかったです。
- 海洋の現状について学ぶために参加しました。世界各国で海洋研究に携わる方々の講演を聞くことができ、大変満足しました。
- 当初このコースには期待していましたが、受講後、期待以上のものを得ることができました。
- 期待通りでした。
- 海についてもっと学び、新しい友達を作ることを期待していました。本当に素晴らしい経験でした。
- 水生生物の研究について学びたいと思っていました。講義のおかげで、生物学分野で用いられるツールについてより深く理解し、知識を深めることができました。
- 期待通りでした。外国の学生とコミュニケーションをとることに興味がありました。

Q22. プログラムで最も大変だったことは何ですか？

- ☐ 連絡先を交換すること
- ☐ 英語の授業が慣れていなかったのも、少し難しかったです。
2回くらい聞き直さないといけませんでした。自分の好きな内容だったので、それほど大変ではありませんでした。
- ☐ 何も問題ありませんでした。
- ☐ インターネット接続と技術
- ☐ 異なるタイムゾーンにいる学生と時間を確保するために、オンラインでミーティングを行いました。
教員をはじめ、全員が協力的でとても親切でした。
- ☐ コミュニケーション
- ☐ その場での英語での返答

Q23. プログラムで一番良かったことは何ですか？

- ☐ チームとのコミュニケーション
- ☐ 乗船してたくさんの生き物を見たこと
- ☐ チームメイトとの議論やプレゼンテーション
- ☐ 人間の食用魚介類の人工生産に関するコース
- ☐ プレゼンテーション
- ☐ 乗船
- ☐ eDNAに関する講義と実習
- ☐ グループメンバー（積極的でフレンドリーでした）

Q24. どうすればプログラムを改善できますか？

- ☐ 特にありません。すべてが完璧でした。
- ☐ 特にありません。
- ☐ このコースは完璧だと思います。
- ☐ 現在のもので良いです。
- ☐ 乗船を延長する。
- ☐ セッションをもっと長くできるといいと思います。
- ☐ 特にありません。良かったです。

Q25. プログラムについて自由にコメントをお願いします。

- ☐ このコースは最高でした。楽しくて、同時に深い学びもありました。ありがとうございました！
- ☐ この機会と素晴らしい経験をありがとうございました!!

4. 受講生の負担金額

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習

・受講生 1名当たり 3,462 円

(内訳)

事項	単価 (円)	数量・単位	3泊4日 (円)
食事代 (朝)	400	3 食	1,200
食事代 (昼)	600	1 食	600
食事代 (夕)	600	2 食	1,200
クリーニング代	462	1 回	462
計			3,462

2. 里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習

・受講生 1名当たり 2,062 円

(内訳)

事項	単価 (円)	数量・単位	1泊2日 (円)
食事代 (朝)	400	1 食	400
食事代 (昼)	600	1 食	600
食事代 (夕)	600	1 食	600
クリーニング代	462	1 回	462
計			2,062

3. With/Postコロナ時代を見据えたVirtual乗船プログラム

・受講生 1名当たり 2,062 円

(内訳)

事項	単価 (円)	数量・単位	1泊2日 (円)
食事代 (朝)	400	1 食	400
食事代 (昼)	600	1 食	600
食事代 (夕)	600	1 食	600
クリーニング代	462	1 回	462
計			2,062

5. 成績評価

(1) 成績評価方法

1. 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演
受講態度50点, 発表・レポート50点で評価する。
2. 里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習
受講態度50点, 発表・レポート50点で評価する。
3. With/Post コロナ時代を見据えた Virtual 乗船プログラム
洋上実習・グループディスカッションでの受講態度およびプレゼンテーションで評価する。

(2) 成績評価基準

- ・秀 (S), 優 (A), 良 (B), 可 (C) 及び不可 (D) の5段階評価とする。
- ・5段階評価の基準は, 100点満点で採点し, 90点以上を「秀 (S)」, 80～89点を「優 (A)」, 70～79点を「良 (B)」, 60～69点を「可 (C)」とし, 60点未満は「不可 (D)」とする。

第2章

共同利用の実績

他大学等共同利用状況

授業科目名等	実施期間	概要
海洋生物学特別実習-1 (公開A1)	4月15日～16日：中止	第15回国際カイアシ類学会ワークショップ予行
海洋生物学特別実習-2 (公開A2)	5月28日～30日	第15回国際カイアシ類学会ワークショップ（国際会議） ・熊本大学 教授1名 ・東京大学 名誉教授1名、院生5名 ・北海道大学 准教授1名、院生3名 ・滋賀県立大学 院生1名 ・鹿児島大学 院生1名 ・長崎大学 院生1名 ・新潟大学 院生1名・沖縄科学技術大学院大学 院生1名 ・全南大学校 院生1名 ・台湾海洋大学 院生1名 ・マレーシアトレンガヌ大学 院生1名 ・セントトーマス大学 院生1名 ・コンケン大学 院生1名 ・ノルウェー大学 院生1名 ・パウリスタ大学 院生1名
海洋観測実習 (教育1)	6月2日～7日	一般海洋観測 ・高知大学 単独 教授1名、准教授1名、学部生32名
フィールド生態環境実習 (教育2)	6月12日～15日	一般海洋観測 ・福山大学生命工学部 教授2名、学部生28名
海洋生物学特別実習-3 (公開A3)	6月17日～21日	小型浮魚魚類の分布調査 ・福山県立大学 准教授1名
里海フィールド演習 (教育10)	8月28日～29日：台風中止	一般海洋観測
海洋生物学特別実習-4 (公開A4)	9月2日～4日：中止	瀬戸内海における微生物の調査
Blue Growth洋上演習 (教育12)	9月18日～20日：中止	Blue Growthを目指したオーダーメイド洋上演習
環境科学実践演習 (教育13)	9月23日～27日：中止	一般海洋観測
海洋生物学特別実習-5 (公開A5)	9月30日～10月7日：中止	口永良部島における魚類相調査
飢餓・貧困解決洋上演習 (教育14)	10月10日～11日：中止	飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習
体験実習1 (教育15)	10月12日～20日：中止	奄美海域の近低層プランクトン・生物採集
体験実習2 (教育17)	11月6日～9日：中止	浅海熱水域生物の幼生分散機構の解明調査等
体験実習3 (教育19)	12月16日～19日	一般海洋観測 ・北里大学 講師1名、学部生1名、院生4名、PD1名
Virtual プログラム (教育24)	3月6日～7日	With/Postコロナ時代を見据えたVirtual乗船プログラム ・沖縄科学技術大学院大学 研究員1名 (オンライン参加) ・アイルラング大学 教員1名、学生8名 ・国立カントー大学 学生6名 ・国立台湾海洋大学 学生11名 ・国立サンマルコス大学 学生9名

*共同利用は、原則として単位認定を伴う教育課程上の乗船実習を練習船保有大学が利用大学に提供することをいう。

区 分	令和6年度		
	所属機関数	利用人数	延べ人数
学内	10	278	662
国立大学	15	58	96
公立大学	1	1	2
私立大学	6	42	95
大学共同利用機関法人	0	0	0
民間・独立行政法人等	13	107	139
外国の研究機関	7	7	14
その他	7	179	179
(うち大学院生)		(87)	(131)
計	59	672	1,187

* 大学の利用人数は学生の利用人数のみとした（教職員等の利用は含まない）。

第2章 共同利用の実績

令和6年度(2024度) 練習船共同利用拠点化における乗船実績

広島大学生物生産学部

[illegible]

第2章 共同利用の実績

令和6年度(2024度) 練習船共同利用拠点化における乗船実績

広島大学生物生産学部

練習船名 豊潮丸 (256.0トン)	整理 記号	航海期間	大学(含:準ずるもの)				大学外(その他)				余 席 数	延べ 余 席 数	航海 区分	備考
			広島大学内		延べ人数		研究機関・企業等		延べ人数					
			教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 院 学 研 職 計	教 生 研 般 他 計	教 生 研 般 他 計						
	2417	8月1日 ～ 8月1日 (1 日)	統合生命科学研究科 1 0 0 0 0 1 教育学部 0 1 4 0 0 5 6	1 0 0 0 0 1 0 1 4 0 0 5 6			江田島青少年交流の家 0 29 0 4 0 33	0 29 0 4 0 33	0	0	S I	航海区分 T : 教育実習航海 R : 調査実習航海 S : 社会貢献航海 D : 入渠補修工事 K : 海上試運転		
	2418	8月2日 ～ 8月2日 (1 日)	統合生命科学研究科 1 1 1 0 0 3	1 1 1 0 0 3			広島大学附属高等学校 2 8 0 0 0 10	2 8 0 0 0 10	0	0	S I			
	2419	8月3日 ～ 8月4日 (2 日)	統合生命科学研究科 2 4 8 0 0 14	4 8 16 0 0 28					6	12	T C		共同利用区分 単位認定を伴う 他大学利用 C : 混乗 I : 単独 その他の共同利用 CO : 便乗 乗船者区分 教 : 教員・教諭 院 : 大学院生 学 : 学部学生・研究生 職 : 事務員・技官 研 : 研究員・調査員 般 : 社会人 他 : 報道・マスコミ その他	
	2420	8月5日 ～ 8月5日 (1 日)	教育学部 0 0 1 0 0 1 経済学部 0 0 2 0 0 2 工学部 0 0 5 0 0 5 生物生産学部 0 0 7 0 0 7 総合科学部 0 0 4 0 0 4 法学部 0 0 4 0 0 4 理学部 0 0 1 0 0 1 24	0 0 1 0 0 1 0 0 2 0 0 2 0 0 5 0 0 5 0 0 7 0 0 7 0 0 4 0 0 4 0 0 4 0 0 4 0 0 1 0 0 1 24					0	0	T C			
	2421	8月6日 ～ 8月9日 (4 日)	統合生命科学研究科 0 0 3 0 0 3	0 0 12 0 0 12					17	68	T C			
	2422	8月10日 ～ 8月10日 (1 日)	統合生命科学研究科 1 0 0 0 0 1 教育学部 0 0 2 0 0 2 経済学部 0 0 1 0 0 1 工学部 0 0 2 0 0 2 情報科学部 0 0 1 0 0 1 総合科学部 0 0 3 0 0 3 法学部 0 0 4 0 0 4 14	1 0 0 0 0 1 0 0 2 0 0 2 0 0 1 0 0 1 0 0 2 0 0 2 0 0 1 0 0 1 0 0 3 0 0 3 0 0 4 0 0 4 14					0	0	T C			
	2423	8月19日 ～ 8月24日 (6 日)	統合生命科学研究科 0 0 10 0 0 10	0 0 60 0 0 60					10	60	T C			
	2434	11月5日 ～ 11月5日 (1 日)	統合生命科学研究科 1 7 28 0 0 36	1 7 28 0 0 36					0	0	D			
	2447	11月10日 ～ 11月10日 (1 日)					一般市民 0 0 0 0 41 41	0 0 0 0 41 41	0	0	D			
	2436	11月18日 ～ 12月7日 (20 日)							0	0	D			
	2437	12月12日 ～ 12月13日 (2 日)	統合生命科学研究科 2 3 7 1 0 13	4 6 14 2 0 26					7	14	T I			
2433	12月14日 ～ 12月15日 (2 日)	統合生命科学研究科 3 4 7 0 0 14	6 8 14 0 0 28					6	12	T C				
2439	12月16日 ～ 12月19日 (4 日)			北里大学 1 4 1 1 0 7	4 16 4 4 0 28			13	52	T C				

第2章 共同利用の実績

令和6年度(2024度) 練習船共同利用拠点化における乗船実績

広島大学生物生産学部

練習船名 豊潮丸 (256.0トン)	整理 記号	航海期間	大学(含:準ずるもの)								大学外(その他)								余 席 数	延 べ 余 席 数	航 海 区 分	備考								
			広島大学内				延べ人数				広島大学外				延べ人数								研究機関・企業等				延べ人数			
			教	院	学	研 職 計	教	院	学	研 職 計	教	院	学	研 職 計	教	院	学	研 職 計					教	生	研	般	他 計	教	生	研
	2440	12月25日 ～ 12月25日 (1 日)	統合生命科学研究科 1 1 0 1 0 3	3	1 1 0 1 0 3	3	水産大学校	0 0 1 0 0 1	1	0 0 1 0 0 1	1	広島国泰寺高校	2 0 15 0 0 17	17	2 0 15 0 0 17	17	0	0	S I	T : 教育実習航海 R : 調査実習航海 S : 社会貢献航海 D : 入渠補修工事 K : 海上試運転 共同利用区分 単位認定を伴う 他大学利用 C : 混乗 I : 単独 その他の共同利用 CO : 便乗 乗船者区分 教 : 教員・教諭 院 : 大学院生 学 : 学部学生・研究生 職 : 事務員・技官 研 : 研究員・調査員 般 : 社会人 他 : 報道・マスコミ その他										
	2441	1月11日 ～ 1月12日 (2 日)	統合生命科学研究科 0 0 19 0 0 19	19	0 0 38 0 0 38												1	2	T C											
	2442	1月18日 ～ 1月19日 (2 日)	統合生命科学研究科 0 0 14 0 0 14	14	0 0 28 0 0 28												6	12	T C											
	2443	1月25日 ～ 1月26日 (2 日)	統合生命科学研究科 0 0 17 0 0 17	17	0 0 34 0 0 34												3	6	T C											
	2444	2月7日 ～ 2月12日 (6 日)	統合生命科学研究科 0 0 16 0 0 16	16	0 0 96 0 0 96												4	24	T C											
	2426	2月17日 ～ 2月22日 (6 日)	統合生命科学研究科 0 0 9 0 0 9	9	0 0 54 0 0 54												11	66	T C											
	2445	3月6日 ～ 3月7日 (2 日)	統合生命科学研究科 1 4 0 0 0 5 人間社会 0 1 0 1 0 2 理学部 0 0 1 0 0 1 総合科学部 0 0 0 1 0 1 9	5 2 2 1 1	2 8 0 0 0 10 0 2 0 2 0 4 0 0 2 0 0 2 0 0 0 2 0 2 18	10 4 2 2	沖縄科学技術大学院大学	0 0 0 1 0 1	1	0 0 0 2 0 2	2						10	30	T C											
	2446	3月11日 ～ 3月14日 (4 日)	統合生命科学研究科 2 3 0 0 0 5 総合科学部 0 0 2 0 0 2 7	5 2 7	8 12 0 0 0 20 0 0 8 0 0 8 28	20 8 28	東京大学大気海洋研究所	0 1 0 0 1 2	2	0 4 0 0 4 8	8							11	60		T C									
2448	3月24日 ～ 3月24日 (1 日)	統合生命科学研究科 1 0 0 0 0 1	1	1 0 0 0 0 1	1							西条農業高校 2 4 0 0 0 6 呉宮原高校 1 6 0 0 0 7 13	6 7 13	2 4 0 0 0 6 1 6 0 0 0 7 13	6 7 13	6	13	S I												
日数 120			教 院 学 研 職 計 30 55 223 4 3 315 広島大学内	教 院 学 研 職 計 74 149 513 7 3 746 広島大学内 延べ人数		教 院 学 研 職 計 13 32 69 3 1 118 広島大学外	教 院 学 研 職 計 37 99 94 13 4 247 広島大学外 延べ人数		教 生 研 般 他 計 16 108 53 75 41 293 大学外	教 生 研 般 他 計 16 110 77 88 41 332 大学外 延べ人数	余席 152	余席 652																		
合計										59 87 292 60 4 108 75 41 726																				
延べ人数合計										127 248 607 97 7 110 88 41 1325																				

広島大学生物生産学部

* 定員20名(教員&学生)+船員12名。 臨時定員50名(平水区域・航行予定時間6時間未満)+船員12名。

* **単独航海**とは他大学の学生のみが航海することをいう。混乗航海【[教育7,10,12,14,18,24](#)特定&[公開実習A（課題提供）](#)、[公開実習B（課題募集）](#)】とは保有大学の学生と一緒に他大学の学生が航海することをいう。その他の共同利用は便乗航海とする。

第3章

共同利用の実施に係る 経費

令和6年度 特別経費(教育関係共同利用実施分)

費 目	金額(千円)
コーディネート担当人件費	600
実習生送迎バス借上げ費	197
広報関係費	0
共同利用運営協議会開催費 (出席委員の旅費含む)	97
重油料	3,045
観測機器整備費	210
実習設備費	655
実習消耗品費	341
実習雑費(入館料等)	18
計	5,163

第4章

共同利用に係る 検討会議の状況

令和6年度 広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会議事要録

日時	令和6年3月3日（月） 13:00～14:27
場所	広島大学生物生産学部 会議室（オンライン併用）
審議者	若林（共同利用運営協議会議長／豊潮丸運営委員会委員長・准教授）、中口（副議長／船長・准教授）、足立（高知大学農林海洋科学部・教授）、北口（福山大学生命工学部・教授）、一見（香川大学農学部瀬戸内圏研究センター・教授）、広瀬（北里大学海洋生命科学部・講師）
陪席者	島田（生物生産学部長）、坂井（豊潮丸運営委員会委員・教授）、和田（豊潮丸運営委員会委員・教授）、平山（豊潮丸運営委員会委員・講師）、加藤（豊潮丸一等航海士）、花岡（支援室・室長）、真田（支援室・副室長）、大下（支援室・主査）、神農（支援室・契約一般職員） ※敬称略

開催に先立ち、若林議長から各委員の紹介があった。

また、島田学部長から挨拶があり、豊潮丸の現状と今後の方針（利用者の利用料負担等）について説明があった。

協議・報告事項等

1. 共同利用航海について

(1) 令和6年度の取組報告

① 高知大学「海洋観測実習」

足立委員から、別紙1に基づき、報告があった。

- ・非常に天候に恵まれ海況が良く、無事に海洋観測のデータを得られ、解析ができた。
- ・可能な限り来年度以降も継続したい。

② 福山大学「フィールド生態環境実習」

北口委員から、別紙2に基づき、報告があった。

- ・天候に恵まれ、海の環境の変化を確認することができた。
- ・可能な限り来年度以降も継続したい。

③ 広島大学「洋上里海総合演習」

中口船長から、別紙3に基づき、報告があった。

- ・今年度は本演習が福山大学の試験期間と重複してしまい、生物生産学部生3名のみの参加となった。次年度は8月上旬から6月下旬に移すこととした。

④ 広島大学「里海フィールド演習」

中口船長から、別紙4に基づき、報告があった。

- ・台風の接近に伴い、学生の安全を考慮して中止とした。

⑤ 北里大学「体験実習3」

広瀬委員から、別紙5に基づき、報告があった。

⑥ 広島大学「練習船で学ぶ広島湾SDGs」

中口船長から、別紙6に基づき、報告があった。

- ・宮島上陸の際には人数分の訪問税が必要であった。
- ・機会があれば、他大学の学生にも乗船いただきたい。

⑦ 広島大学「Virtualプログラム」

若林議長から、別紙7に基づき、報告があった。

- ・海外の学生向けにMicrosoft Teamsで繋ぎ、オンタイムで実習を行う予定である。
- ・航海距離を縮め、陸に近づき通信状況のトラブルを避けるため、瀬戸内海の似島付近で実習を行うこととした。

(中口船長) 高知大学の実習で小型 CTD が点検中のため大型 CTD を使用したが、クロロフィルセンサーの値が異常であると指摘を受けた。大型 CTD の点検には日数と費用がかかるため、調整が必要である。点検が終了した小型 CTD では溶存酸素の値が異常である。溶存酸素とクロロフィルの測定に関しては注意が必要である。

(2) 令和 7 年度の取組予定 (案) (整理番号は運航計画表 20250217 より)

① 高知大学「海洋観測実習」整理番号 2505

足立委員から、2025 年度運航計画表に基づき、説明があった。

- ・クロロフィルは、測定できないのであればなくても問題ない。
- ・溶存酸素は、手分析のウィンクラー法で分析を行うため、測定できなくても問題ない。
- ・大型 CTD でも小型 CTD でも例年通りの深度で観測できればどちらのものでも構わない。

(中口船長) 大型 CTD でも小型 CTD でもセンサーの深度は変わりなく、高知大学の
実習で観測を行う深度 500m は問題ない。

重油高騰に伴い、天候が良ければ出航日を 1 日遅らせ、実習が終了次第高知を出港すると、前後二日は日数が削減可能である。停泊中は 1 時間に 3,000 円程度の重油を消費するため、可能な限り日数を削減するよう検討している。

② 福山大学「フィールド生態環境実習」整理番号 2507

北口委員から、2025 年度運航計画表に基づき、説明があった。

- ・本実習は 3 年生が、洋上里海演習は 2 年生が行う予定である。

(中口船長) 現時点では濃霧を考慮して 4 日間確保しているが、天候が良ければ乗船日の朝 8 時に
出港すれば乗船時間の 1 時間前に福山に入港できるため、1 日
日数削減が可能である。

③ 広島大学「洋上里海総合演習」整理番号 2508

中口船長から、別紙 8 に基づき、説明あった。

- ・今年度から最終日の日程をなぎさ水族館の見学に変更した。

④ 広島大学「里海フィールド演習」整理番号 2522

中口船長から、別紙 9 に基づき、説明があった。

⑤ 広島大学「Blue Growth 洋上演習」整理番号 2529

中口船長から、別紙 10 に基づき、説明があった。

⑥ 広島大学「飢餓・貧困解決洋上演習」整理番号 2534

中口船長から、別紙 11 に基づき、説明があった。

⑦ 北里大学「北里大・海洋実習」整理番号 2528

広瀬委員から、2025 年度運航計画表に基づき、説明があった。

- ・体験実習として 3 つの航海を行っていたが、カリキュラム改変により、うち 1 つが海洋実習に変更された。体験実習は、航海日数と重油代を考慮して、2532 公開 A7 航海に混乗予定である。令和 8 年度以降の体験実習の有無については未定である。
- ・他大学の船と乗船日程を合わせる必要があるため、下船日を祝日に設定している。

⑧ 広島大学「練習船で学ぶ広島湾 SDGs」整理番号 2537

中口船長から、別紙 12 に基づき、説明があった。

⑨ 広島大学「Virtual プログラム」整理番号 2545

若林議長から、2025 年度運航計画表に基づき、説明があった。

- ・開講を目指しているが、実施可否が決定されるのは来年度の夏ごろである。

2. 豊潮丸運航計画等（共同利用実績等を含む）について

(1) 令和6年度実績

令和6年度運航計画表改正6案（20250221）

中口船長から、別紙13に基づき、説明があった。

- ・4月から5月、8月後半からドックまでは運航不可能であった。
- ・170日の運航を計画していたが、約50日減少の120日の運航日数となる。
- ・今年度のドッグ期間中に外航船から内航船への切替を行った。検査を毎年受検する必要がなくなり、次回は2年後の定期検査となる。来年度は修繕ドックとなる。令和8年度が5年に1回の定期検査となり、修繕と検査が重なり5,000万円を超える予算が必要となる可能性があるため、学長裁量経費を依頼する必要がある。

（一見委員）今後外航船に戻す予定はあるのか。拠点の事務手続き上は問題ないのか。

（中口船長）一回内航船に切替を行うと外航船に戻すのは困難である。内航船への切替に伴い機械を取り外し、通信長不在で運航できない状況が2回発生したことから、4代目豊潮丸に関しては内航船のままを予定している。これまでの豊潮丸の航海海域は内航船のエリアを出ていないため、実習や調査は問題なく行えると考える。

（若林議長）外航を予定して拠点を申請しているわけではないので、拠点の事務手続き上への影響はないと考える。

(2) 令和7年度計画（案）

令和7年度運航計画表（20250217）

中口船長から、別紙14に基づき、説明があった。

- ・年間170日の航海を目標としていたが、燃料費と運航費の赤字を考慮して、可能な限り航海を統合・削減することで、年間148日の航海日数を予定している。
- ・香川大学はカリキュラム変更のため、来年度の航海はない。

3. 教育関係共同利用拠点経費について

(1) 令和5年度決算報告

特別経費の概要

中口船長から、別紙15に基づき、説明があった。

- ・拠点費として5,163,000円を支出した。

(2) 令和6年度の執行状況

中口船長から、別紙16に基づき、説明があった。

拠点費の予算は、昨年度と同額の5,163,000円であった。

- ・今年度はコーディネーター教員を採用していない。
- ・運航費の重油の一部を拠点費として振り替える予定である。

(3) 令和7年度予算執行計画

運営交付金所要額積算内訳（教育共同利用実施分）

中口船長から、別紙17に基づき、説明があった。

- ・拠点費の予算は、約30万減額の4,802,000円である。

4. その他

(1) 令和7年度練習船豊潮丸共同利用運営協議会委員について

- ・若林議長から、別紙18に基づき、来年度の委員継続について確認があり、各委員が

ら了承を得た。

- ・足立委員から、利用料の徴収予定について質問があった。
それに対し、花岡支援室長から、来年度より利用料の徴収を検討している旨、説明があった。
また、足立委員から、来年度の負担については今年度中におおよその金額を連絡いただきたい旨、依頼があった。

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会委員名簿

令和6年度

所 属	役 職	氏 名	任期満了の日	備考
統合生命科学研究科・ 生物生産学部	議長（運営委員会委員長） ・准教授	若林 香織	職指定	第1号委員
生物生産学部附属練習船 豊潮丸	副議長 船長・准教授	中口 和光	職指定	第2号委員
統合生命科学研究科・ 生物生産学部	教授	小池 一彦	～2026.3.31	第3号委員
統合生命科学研究科・ 生物生産学部	准教授	浅岡 聡	～2026.3.31	第3号委員
高知大学 農林海洋科学部	教授	足立 真佐雄	～2026.3.31	第4号委員
福山大学 生命工学部	教授	北口 博隆	～2026.3.31	第4号委員
香川大学 農学部 瀬戸内圏研究センター	教授	一見 和彦	～2026.3.31	第4号委員
北里大学 海洋生命科学部	講師	広瀬 雅人	～2026.3.31	第4号委員

○広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則（抜粋）

（共同利用運営協議会）

第3条 豊潮丸に、共同利用の実施に関する事項を審議するため、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会（以下「運営協議会」という。）を置く。

第4条 運営協議会は、次に掲げる委員で組織する。

(1) 広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営委員会委員長(以下「運営委員会委員長」という。)

(2) 豊潮丸船長

(3) 広島大学生物生産学部(以下「本学部」という。)の担当を命じられている教員のうちから、広島大学生物生産学部長(以下「学部長」という。)が指名する者若干人

(4) 広島大学以外の大学又は高等専門学校に所属する練習船の共同利用に関する有識者若干人

2 前項第3号及び第4号の委員は、学部長が任命又は委嘱する。

3 第1項第3号及び第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 第1項第3号及び第4号の委員が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任者の

任期は、前任者の残任期間とする。

第5条 運営協議会は、次に掲げる事項について審議する。

(1) 豊潮丸の共同利用に係る公募及び選考に関すること。

(2) 豊潮丸の共同利用に係る運航計画に関すること。

(3) 豊潮丸の共同利用に係る利用環境に関すること。

(4) その他豊潮丸の共同利用に関すること。

第6条 運営協議会に議長を置き、運営委員会委員長をもって充てる。

2 議長は、運営協議会を主宰する。

3 運営協議会に副議長を置き、第4条第1項第2号及び第3号の委員のうちから、議長が指名する。

4 副議長は、議長を補佐し、議長に事故があるときは、その職務を代行する。

第7条 運営協議会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 運営協議会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第8条 運営協議会は、必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

参 考 資 料

1. 教育関係共同利用拠点に関する法令等

(1) 教育関係共同利用拠点制度について

教育関係共同利用拠点制度について

《制度の趣旨》

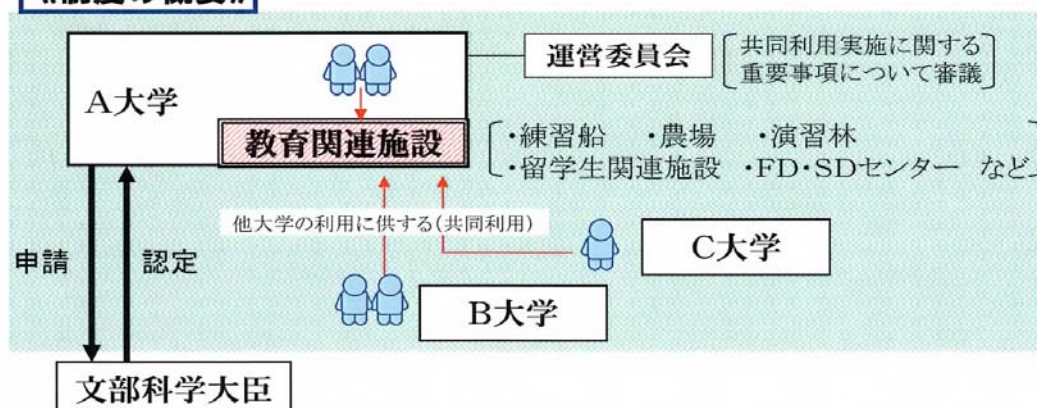
多様化する社会と学生のニーズに応えるべく、各大学において、それぞれの教育理念に基づいて機能別分化を図り、個性化・特色化を進めながら教育研究活動を展開していくことが重要。

質の高い教育を提供していくためには、個々の大学の取組だけでは限界があるため、他大学との連携を強化し、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等の有効活用を推進することにより、大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していくことが必要不可欠。

大学の教育関連施設の共同利用の促進を図るための制度を創設し(「教育関係共同利用拠点」。21年9月より施行*)、大学間連携を図る取組を一層推進。

*「学校教育法施行規則(第143条の2)」、「教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程」(学術研究分野については、平成20年に「共同利用・共同研究拠点」を既に制度化)

《制度の概要》



【認定基準】

- 大学教育の充実に特に資すると認められるものであること
- 共同利用実施に関する重要事項について審議する委員会を置くこと
- 利用する大学を広く募集するものであること
- 共同利用に必要な設備・資料等を備えていること など

《中教審での審議状況》

- ・21年7月～8月 全国共同利用検討WGにて、改正内容に関して審議。
- ・22年8月22日 大学規模・大学経営部会に、制度の改正について報告。

(2) 学校教育法施行規則(抜粋)

(略)

第9章 大学

第1節 設備, 編制, 学部及び学科

第142条 大学(大学院を含み, 短期大学を除く。以下この項において同じ。)の設備, 編制, 学部及び学科に関する事項, 教員の資格に関する事項, 通信教育に関する事項その他大学の設置に関する事項は, 大学設置基準(昭和31年文部省令第28号), 大学通信教育設置基準(昭和56年文部省令第33号), 大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)及び専門職大学院設置基準(平成15年文部科学省令第16号)の定めるところによる。

2 短期大学の設備, 編制, 学科, 教員の資格, 通信教育に関する事項その他短期大学の設置に関する事項は, 短期大学設置基準(昭和50年文部省令第21号)及び短期大学通信教育設置基準(昭和57年文部省令第3号)の定めるところによる。

第143条 教授会は, その定めるところにより, 教授会に属する職員のうちの一部の者をもつて構成される代議員会, 専門委員会等(次項において「代議員会等」という。)を置くことができる。

2 教授会は, その定めるところにより, 代議員会等の議決をもつて, 教授会の議決とすることができる。

第143条の2 大学における教育に係る施設は, 教育上支障がないと認められるときは, 他の大学の利用に供することができる。

2 前項の施設を他の大学の利用に供する場合において, 当該施設が大学教育の充実に特に資するときは, 教育関係共同利用拠点として文部科学大臣の認定を受けることができる。

第143条の3 大学には, 学校教育法第96条の規定により大学に附置される研究施設として, 大学の教員その他の者で当該研究施設の目的たる研究と同一の分野の研究に従事する者に利用させるものを置くことができる。

2 前項の研究施設のうち学術研究の発展に特に資するものは, 共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けることができる。

(略)

(3) 教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程 (平成21年8月20日文科科学省告示第155号)

(趣旨)

第1条 学校教育法施行規則(以下「規則」という。)第143条の2第2項の規定に基づく教育関係共同利用拠点の認定その他の教育関係共同利用拠点に関する事項については、この規程の定めるところによる。

(認定の基準)

第2条 規則第143条の2第2項に規定する教育関係共同利用拠点(以下「拠点」という。)の認定の基準は次のとおりとする。

- (1) 学生に対する教育、学生の修学等の支援、教育内容及び方法の改善その他大学における教育に係る機能を有する施設であって、大学教育の充実に特に資すると認められるものであること。
- (2) 拠点の認定を受けようとする施設(以下「申請施設」という。)が、他の大学の利用に供するものとして大学の学則その他これに準ずるものに記載されていること。
- (3) 申請施設の運営について権限を有する者の諮問に応じ、共同利用の実施に関する重要事項について審議する機関として、次に掲げる委員で組織する委員会(この条及び次条において「運営委員会」という。)を置き、イの委員の数が運営委員会の委員の総数の2分の1以下であること。
 - イ 当該申請施設の職員
 - ロ 当該共同利用に係る事項に関し学識経験を有する者
 - ハ その他申請施設の運営について権限を有する者が必要と認める者
- (4) 申請施設を利用する大学を広く募集するものであること。
- (5) 申請施設の種類等に応じ、共同利用に必要な設備及び資料等を備えていること。
- (6) 申請施設を利用する大学に対し、申請施設の利用に関する技術的支援、必要な情報の提供その他の支援を行うための必要な体制を備えていること。
- (7) 申請施設の利用の方法及び条件、利用可能な設備及び資料等の状況、申請施設における教育の成果その他の共同利用に関する情報の提供を広く行うものであること。
- (8) 申請施設の種類等に応じ相当数の大学の利用が見込まれること。

(認定の申請)

第3条 申請施設を置く大学の学長は、申請書に次に掲げる書類を添えて、文部科学大臣に申請するものとする。

- (1) 拠点の認定を受ける趣旨及び必要性を説明する書類
- (2) 学則その他これに準ずるもので申請施設の位置付けを記載しているもの
- (3) 申請施設の名称、目的、所在地その他の概要を説明する書類
- (4) 運営委員会の規則及び名簿
- (5) 申請施設を利用する大学の募集及び決定の方法を説明する書類
- (6) 申請施設の設備及び資料等の状況を説明する書類
- (7) 申請施設を利用する大学に対する支援の体制を説明する書類
- (8) 申請施設に関する情報提供の内容及び方法を説明する書類
- (9) その他第2条に規定する基準に適合することを説明する書類

(認定の手續)

第4条 文部科学大臣は、前条の申請があつた場合には、当該申請に係る認定をするかどうかを決定し、当該申請をした大学の学長に対し、速やかにその結果を通知するものとする。

2 文部科学大臣は、前項の認定を行う場合において、その有効期間を定めるものとする。

(変更及び廃止等の届出)

第5条 拠点の認定を受けた施設を置く大学の学長（以下「学長」という。）は、次に掲げる場合には、あらかじめ、その旨を文部科学大臣に届け出るものとする。

(1) 当該施設の名称、目的又は所在地を変更しようとするとき。

(2) 当該施設を廃止しようとするとき。

(3) 当該施設を共同利用に供することをやめようとするとき。

(文部科学大臣への報告等)

第6条 学長は、毎年度、当該年度における共同利用の実施計画を定め、当該年度の開始前に、文部科学大臣に提出するものとする。

2 学長は、毎年度終了後3月以内に、当該年度における共同利用の実施状況を取りまとめ、文部科学大臣に提出するものとする。

(認定の取消し)

第7条 文部科学大臣は、拠点が第2条に規定する基準に適合しなくなつたと認めるとき又は第5条第2号若しくは第3号の届出を受けたときは、認定を取り消すことができる。

(認定等の公表)

第8条 文部科学大臣は、拠点の認定をし、又はこれを取り消したときは、インターネットの利用その他適切な方法により、その旨を公表するものとする。

（４）学校教育法施行規則の一部を改正する省令及び教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程の施行について（通知）

21年文科高第38号
平成21年8月27日

各国公立大学長
大学を設置する各地方公共団体の長
各公立大学法人の理事長
大学を設置する各学校法人の理事長
大学を設置する各学校設置会社の代表取締役
放送大学学園理事長

殿

文部科学省高等教育局長
徳 永 保

学校教育法施行規則の一部を改正する省令 及び教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程の施行について（通知）

このたび、別添1とおり、学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成21年文部科学省令第30号）が、また、別添2のとおり、教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程（平成21年文部科学省告示第155号）が、それぞれ平成21年8月20日に公布され、平成21年9月1日から施行されることとなりました。

今回創設される教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物質資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していく大学の取組を支援するものです。

既に教育課程の共同実施制度や学術研究分野における共同利用・共同研究拠点制度が施行されているところですが、各大学におかれては、下記に示す今回の新たな制度の詳細について十分ご了知いただき、同制度をご活用いただくようお願い致します。

なお、文部科学大臣への申請様式や対象施設、施設の種類等に応じた認定基準等、申請手続きにあたり必要な事項や今後の申請スケジュール等については、別途お知らせします。

記

第1 学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成21年文部科学省令第30号）の概要

- （１） 大学における教育に係る施設は、教育上支障がないと認められるときは、他の大学の利用に供することができること。（第143条の2第1項関係）
- （２） （１）の施設を他の大学の利用に供する場合において、当該施設が大学教育の充実に特に資するときは、教育関係共同利用拠点（以下「拠点」という。）として文部科学大臣の認定を受けることができること。（第143条の2第2項関係）

第2 教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程（平成21年文部科学省告示第155号）の概要

（1）趣旨（第1条関係）

拠点の認定その他の教育関係共同利用拠点に関する事項については、この規程の定めるところによること。

（2）認定基準（第2条関係）

拠点の認定の基準は次の①～⑧の要件に適合するものであること。

- ① 学生に対する教育，学生の修学等の支援，教育内容及び方法の改善その他大学における教育に係る機能を有する施設であって，大学教育の充実に特に資すると認められるものであること。（第1号）
- ② 拠点の認定を受けようとする施設（以下「申請施設」という。）が，他の大学の利用に供するものとして大学の学則その他これに準ずる学内規程等に記載されていること。新設の施設の場合にあつては，当該施設が設置された際に学内でどのような位置づけを有するのか明らかにすること。（第2号）
- ③ 開かれた運営体制を確保し，幅広い意見を拠点の運営等に反映させれるため，申請施設の運営について権限を有する者の諮問に応じ，共同利用の実施に関する重要事項について審議する機関として，次に掲げる委員で組織する運営委員会を置いていること。また，その際，イの委員の数が運営委員会の委員の総数の2分の1以下であること。なお，「申請施設の運営について権限を有する者」に具体的に該当する者については，各大学において実態に即して判断することとする。また，ロの委員については，学外者であることが望ましいこととする。（第3号）
 - イ 当該申請施設の職員
 - ロ 当該共同利用に係る事項に関し学識経験を有する者
 - ハ その他申請施設の運営について権限を有する者が必要と認める者
- ④ 申請施設を利用する大学を広く募集するものであること。なお，近隣の大学のみによる共同利用も許容されることとする。また，当該施設を利用する機関は大学のみ限定されるものではなく，各大学の判断で，大学以外に高等専門学校や専門学校等にも拠点の利用を認めることができるものであることとする。（第4号）
- ⑤ 申請施設の種類等に応じ，共同利用に必要な設備，要件及び資料，データベース等を備えていること。（第5号）
- ⑥ 申請施設を利用する大学に対し，申請施設の利用に関する技術的支援，必要な情報の提供その他の支援を行うための必要な体制を備えていること。（第6号）
- ⑦ より多くの大学の利用を図り，成果を広く発信するという観点から，申請施設の利用の方法及び条件，利用可能な設備及び資料等の状況，申請施設における教育の成果その他の共同利用に関する情報の提供を広く行うものであること。（第7号）
- ⑧ 申請施設の種類等に応じ相当数の大学の利用が見込まれること。なお，望ましい具体的な利用大学数については，申請施設の種類等に応じて判断することとする。（第8号）

（3）認定の申請（第3条関係）

申請施設を置く大学の学長は，申請書に次の①～⑨の書類を添えて，文部科学大臣に申請すること。

- ① 拠点の認定を受ける趣旨及び必要性を説明する書類（第1号）

- ② 学則その他これに準ずるもので申請施設の位置付けを記載しているもの（第2号）
 - ③ 申請施設の名称，目的，所在地その他の概要を説明する書類（第3号）
 - ④ 運営委員会の規則及び名簿（第4号）
 - ⑤ 申請施設を利用する大学の募集及び決定の方法を説明する書類（第5号）
 - ⑥ 申請施設の設備及び資料等の状況を説明する書類（第6号）
 - ⑦ 申請施設を利用する大学に対する支援の体制を説明する書類（第7号）
 - ⑧ 申請施設に関する情報提供の内容及び方法を説明する書類（第8号）
 - ⑨ その他第2条に規定する基準に適合することを説明する書類（第9号）
- （4） 認定の手續（第4条関係）
- 文部科学大臣は，申請があつた場合には，当該申請に係る認定をするかどうかを決定し，当議申請をした大学の学長に対し，速やかにその結果を通知するものとする。また，当該認定を行う場合において，その有効期間を定めるものとする。なお，有効期間については，各施設ごとに認定の際に判断することとする。
- （5） 変更及び廃止等の届出（第5条関係）
- 拠点の認定を受けた施設を置く大学の学長（以下「学長」という。）は，次に掲げる場合には，あらかじめ，その旨を文部科学大臣に届け出るものとする。
- ① 当該施設の名称，目的又は所在地を変更しようとするとき。
 - ② 当該施設を廃止しようとするとき。
 - ③ 当該施設を共同利用に供することをやめようとするとき。
- （6） 文部科学大臣への報告等（第6条関係）
- 学長は，毎年度，当該年度における共同利用の実施計画を定め，当該年度の開始前に，文部科学大臣に提出するものとする。また，学長は，毎年度終了後3ヶ月以内に，当該年度における共同利用の実施状況を取りまとめ，文部科学大臣に提出するものとする。
- （7） 認定の取消し（第7条関係）
- 文部科学大臣は，拠点が（2）に規定する基準に適合しなくなつたと認めるとき又は（5）②若しくは③の届出を大学から受けたときは，認定を取り消すことができる。
- （8） 認定等の公表（第8条関係）
- 文部科学大臣は，拠点の認定をし，又はこれを取り消したときは，インターネットの利用その他適切な方法により，その旨を公表するものとする。
- （9） 施行期日（附則関係）
- 教育関係共同利用拠点制度は，平成21年9月1日から実施するものであること。

2. 共同利用に関する広島大学の規則

(1) 練習船豊潮丸運営内規

○広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規

平成16年4月26日

学部長決裁

改正 平成18.3.7, 平成21.4.20, 平成22.9.27, 平成23.8.24, 平成24.5.21, 平成24.6.21, 平成27.9.28, 平成29.1.23
平成30.2.15, 平成31.4.15, 令和2.6.2

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規

(趣旨)

第1条 この内規は、広島大学学則(平成16年4月1日規則第1号)第13条第2項の規定に基づき、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸(以下「豊潮丸」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 豊潮丸は、水産学、海洋学並びに広く生物生産学に関する教育研究を行い、これらの分野において貢献できる人材を育成するとともに、社会の発展に寄与することを目的とする。

(共同利用)

第3条 豊潮丸は、学校教育法施行規則(昭和22年5月23日文部省令第10号)第143条の2に基づき、他の大学等の利用に供することができる。

2 前項の利用に関し必要な事項は、別に定める。

(船員)

第4条 豊潮丸に、広島大学船員就業規則(平成16年4月1日規則第79号)第2条に規定する船員を置く。

2 船員のうち船長及び首席一等航海士は、教員をもって充てる。

3 船長の選考に関し必要な事項は、別に定める。

4 船員の服務等に関し必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第5条 豊潮丸に、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

第6条 運営委員会は、次に掲げる構成員で組織する。

(1) 豊潮丸船長

(2) 副学部長(総務担当)

(3) 広島大学生物生産学部長(以下「学部長」という。)が指名する者若干人

2 前項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

3 第1項第3号の委員が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 第1項第3号の委員の任期は、学部長の任期を超えないものとする。

第7条 運営委員会は、豊潮丸に関し次に掲げる事項を審議する。

- (1) 管理運営の基本方針に関すること。
- (2) 船員（船長及び首席一等航海士は除く。）の人事に関すること。
- (3) 予算及び決算に関すること。
- (4) 運航計画に関すること。
- (5) 基地施設及び棧橋に関すること。
- (6) 船内の利用環境に関すること。
- (7) その他豊潮丸の運営に関すること。

第8条 運営委員会に委員長を置き、委員のうちから学部長が指名する。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を行う。

第9条 運営委員会は、必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（事務）

第10条 豊潮丸の事務は、生物学系総括支援室において処理する。

（雑則）

第11条 この内規に定めるもののほか、豊潮丸に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、平成16年4月26日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則（平成18年3月7日 一部改正）

この内規は、平成18年4月1日から施行し、この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規は、平成17年10月1日から適用する。

附 則（平成21年4月20日 一部改正）

この内規は、平成21年4月20日から施行し、この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規は、平成21年4月1日から適用する。

附 則（平成22年9月27日 一部改正）

この内規は、平成22年9月27日から施行する。

附 則（平成23年8月24日 一部改正）

この内規は、平成23年8月24日から施行する。

附 則（平成24年5月21日 一部改正）

この内規は、平成24年5月21日から施行し、この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規の規定は、平成24年4月1日から適用する。

附 則（平成24年6月21日 一部改正）

この内規は、平成24年6月21日から施行し、この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規の規定は、平成24年4月1日から適用する。

附 則（平成27年9月28日 一部改正）

この内規は、平成27年9月28日から施行し、この内規による改正後の広島大学生物生

産学部附属練習船豊潮丸運営内規の規定は、平成27年4月1日から適用する。

附 則（平成29年1月23日 一部改正）

この内規は、平成29年1月23日から施行する。

附 則（平成30年2月15日 一部改正）

この内規は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年4月15日 一部改正）

この内規は、平成31年4月15日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

附 則（令和2年6月2日 一部改正）

この内規は、令和2年6月2日から施行し、この内規による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規の規定は、令和2年4月1日から適用する。

(2) 練習船豊潮丸共同利用細則

○広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則

平成22年9月27日

学部長決裁

改正 平成28.4.18, 平成29.1.23, 平成30.9.3, 平成31.4.15, 令和2.6.2

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則

(趣旨)

第1条 この細則は、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規(平成16年4月26日学部長決裁。以下「運営内規」という。)第3条第2項の規定に基づき、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸(以下「豊潮丸」という。)の共同利用に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この細則において、「共同利用」とは、他の大学(外国の大学を含む。)又は高等専門学校(以下「他大学等」という。)が教育課程上の実習等を行うため豊潮丸を利用すること(単位認定を含む。)をいう。

(共同利用運営協議会)

第3条 豊潮丸に、共同利用の実施に関する事項を審議するため、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会(以下「運営協議会」という。)を置く。

第4条 運営協議会は、次に掲げる委員で組織する。

- (1) 広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営委員会委員長(以下「運営委員会委員長」という。)
- (2) 豊潮丸船長
- (3) 広島大学生物生産学部(以下「本学部」という。)の担当を命じられている教員のうちから、広島大学生物生産学部長(以下「学部長」という。)が指名する者若干人
- (4) 広島大学以外の大学又は高等専門学校に所属する練習船の共同利用に関する有識者若干人

2 前項第3号及び第4号の委員は、学部長が任命又は委嘱する。

3 第1項第3号及び第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 第1項第3号及び第4号の委員が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第5条 運営協議会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 豊潮丸の共同利用に係る公募及び選考に関すること。
- (2) 豊潮丸の共同利用に係る運航計画に関すること。
- (3) 豊潮丸の共同利用に係る利用環境に関すること。
- (4) その他豊潮丸の共同利用に関すること。

第6条 運営協議会に議長を置き、運営委員会委員長をもって充てる。

2 議長は、運営協議会を主宰する。

3 運営協議会に副議長を置き、第4条第1項第2号及び第3号の委員のうちから、議長が指名する。

4 副議長は、議長を補佐し、議長に事故があるときは、その職務を代行する。

第7条 運営協議会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 運営協議会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第8条 運営協議会は、必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(公募及び決定)

第9条 学部長は、適切な時期に次年度の共同利用について公募を行う。

2 共同利用については、前項の公募により応募のあった他大学等のうちから選考するものとし、運営協議会における審議を経て、学部長が決定する。

(実習等の実施)

第10条 共同利用に参加する学生への実習等の指導については、本学部の教員及び豊潮丸の船員並びに利用する他大学等の教員が行うものとする。

(損害賠償)

第11条 共同利用を行う他大学等は、その責に帰すべき事由により、豊潮丸の設備及び備品等を損傷又は滅失したときは、その損害を賠償しなければならない。

2 本学部は、その責に帰さない事由により、共同利用に参加した学生等に事故が発生したときは、その損害の賠償の責を負わない。

(事務)

第12条 共同利用に関する事務は、生物学系総括支援室において処理する。

(雑則)

第13条 この細則に定めるもののほか、共同利用に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この細則は、平成22年9月27日から施行する。

2 この細則の施行後最初に任命又は委嘱される運営協議会委員の任期は、第4条第3項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとする。

附 則(平成28年4月18日 一部改正)

この細則は、平成28年4月18日から施行し、この細則による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則の規定は、平成28年4月1日から適用する。

附 則(平成29年1月23日 一部改正)

この細則は、平成29年1月23日から施行する。

附 則(平成30年9月3日 一部改正)

この細則は、平成30年9月3日から施行する。

附 則(平成31年4月15日 一部改正)

この細則は、平成31年4月15日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

附 則(令和2年6月2日 一部改正)

この細則は、令和2年6月2日から施行し、この細則による改正後の広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則の規定は、令和2年4月1日から適用する。

(3) 練習船豊潮丸の共同利用等に関する申合せ

○広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸の共同利用等に関する申合せ

(平成30年 7月20日学部長決裁)

改正 令和2年10月29日一部改正

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸の共同利用等に関する申合せ

第1 この申合せは、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸運営内規（平成16年4月26日学部長決裁）第11条及び広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用細則（平成22年9月27日学部長決裁。以下「利用細則」という。）第13条の規定に基づき、広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸（以下「豊潮丸」という。）の共同利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

2 利用細則第2条に定める共同利用において、申請ができる機関及び個人は次のとおりとする。

(1) 国内外の大学又は高等専門学校（以下「他大学等」という。）

(2) 豊潮丸に乗船を希望する他大学等の学生及び航海責任者が航海計画において同乗することを認めた者（以下「学生等」という。）

(共同利用の区分)

第2 共同利用は次の区分に分けて、公募の実施又は利用申請を受け付けるものとする。

(1) 単独航海利用

教育実習航海として他大学等が航海計画を立案し、他大学等の学生が乗船定員の範囲内で教員の引率の下、実施する航海において利用する場合。

(2) 混乗航海利用

広島大学が主催する教育実習航海、調査実習航海、社会貢献航海のうち、乗船定員に余席がある航海において、航海責任者が認めた学生等が利用する場合。

(共同利用の公募)

第3 広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸共同利用運営協議会（以下「運営協議会」）は、利用規則第5条1号に規定する共同利用に係る公募及び選考を行うため、毎年度、第2(1)及び(2)の区分ごとに公募要領を作成し、関係の他大学等へ周知を行うほか、生物生産学部ホームページ等を活用し、広く共同利用の公募を行うものとする。

2 公募要領には、公募内容、申込資格、申込期限、申込先、審査及び採否などの情報を記載する。

(利用申請)

第4 共同利用を希望する者は、利用の区分ごとにそれぞれ次に定める様式に必要事項を記載し、利用申請するものとする。

(1) 単独航海利用……別記様式1

(2) 混乗航海利用……別記様式2

(利用の許可)

第5 第4(1)については、運営協議会で審査・承認後、学部長が許可を行い申請者に通知

するものとする。

- 2 第4(2)については、航海責任者が余席及び乗船について確認を行い、航海責任者が利用の可否を決定し、申請者に連絡するものとする。
- 3 利用を許可された者は、別記様式3に定める「乗船者名簿・食事表」を作成の上、航海責任者を通じて航海実施日の10日前までに豊潮丸船長に提出し、内容の確認を受けるものとする。
- 4 利用を許可された者は、別記様式4に定める「覚書」を航海実施日の原則10日前までに豊潮丸に提出するものとする。なお、「覚書」を提出しない者は乗船の許可を取り消す。

(利用にかかる経費)

第6 豊潮丸乗船に際し、利用者が負担すべき経費は別に定める。

(共同利用以外の利用)

- 第7 共同利用以外に練習船基地(棧橋)の利用に関する申請があった時は、豊潮丸船長が利用申請の可否について決定し、通知するものとする。
- 2 練習船基地(棧橋)の利用を希望する者は、原則として利用日の2日前までに別記様式5に必要事項を記載し、豊潮丸船長に利用申請するものとする。

附 則

- 1 この申合せは、平成30年 7月21日から施行する。
- 2 この申合せの制定に伴い、「広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸の共同利用に関する申し合わせ(平成29年7月4日承認)」は廃止とする。

附 則

この申合せは、令和2年10月29日から施行する。

附属練習船共同利用申請書(単独航海)

広島大学生物生産学部長 殿

令和 年 月 日

利用代表者(申請者)

大 学 名
職 名 等
氏 名

印

(自署の場合は押印不要)

連絡先(電話番号)

Eメールアドレス

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。

なお、利用に際しては、乗船活動に関する保険加入を済ませ、広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設	附属練習船豊潮丸			
利用計画	(目的・教育・調査研究内容等:※記入欄が不足する場合には別紙添付としてください。)			
利用希望者 (別紙添付可)	氏 名	大学・学部・学年等	加入保険の名称(必須)	乗船利用期間
使用観測機器	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器		申請者持込み予定の観測機器	
航海責任者:所属機関連絡先(※申請者と同じ場合は記入不要)			備考欄	
航海責任者 氏名 (部署・職名) TEL Eメールアドレス	(印またはサイン)		*この申請書はPDFのメール送信でも提出できますが、その場合は乗船時に必ず本紙を持参してください。	

* 乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合、練習船への乗船は許可しません。

* 乗船者名簿及び覚書を航海実施日の10日前までに提出願います。

上記の利用申請について、許可します。

令和 年 月 日

広島大学生物生産学部長

(公印省略)

附属練習船共同利用申請書(単独航海)

広島大学生物生産学部長 殿

令和〇〇年〇〇月〇〇日

記入例

利用代表者(申請者)

大 学 名 〇〇大学大学院〇〇研究科
職 名 等 教授

氏 名 〇〇 〇〇 (自署の場合は押印不要) 印

連絡先(電話番号) XXX-XXX-XXXX(内XXXX)

Eメールアドレス 〇〇〇@〇〇〇〇

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。

なお、利用に際しては、乗船活動に関する保険加入を済ませ、広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設 附属練習船豊潮丸

利用計画

(目的・教育・調査研究内容等:※記入欄が不足する場合には別紙添付としてください。)

別紙のとおり

	氏 名	大学・学部・学年等	加入保険の名称(必須)	乗船利用期間
利用希望者 (別紙添付可)	〇〇 〇〇	〇〇大学大学院〇〇研究科・教授	〇〇保険	R〇〇/O/O ~ R〇〇/O/O
	〇〇 〇〇	〇〇大学大学院〇〇研究科・M2	学研災	R〇〇/O/O ~ R〇〇/O/O
	〇〇 〇〇	〇〇大学大学院〇〇研究科・M1	学研災	R〇〇/O/O ~ R〇〇/O/O
	〇〇 〇〇	〇〇大学〇〇学部・B4	学研災	R〇〇/O/O ~ R〇〇/O/O
	〇〇 〇〇	〇〇大学〇〇学部・B4	学研災	R〇〇/O/O ~ R〇〇/O/O

	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器	申請者持込み予定の観測機器
使用観測機器	プランクトンネット(手で引くことのできるサイズ)	実体顕微鏡 ドローン 暗箱

航海責任者:所属機関連絡先(※申請者と同じ場合は記入不要)		備考欄
航海責任者 氏名 (部署・職名) TEL Eメールアドレス	(印またはサイン) 申請者と同じ	問合せ先:〇〇大学〇〇学部支援室(担当〇〇) TEL: XXX-XXX-XXXX(内XXXX) E-mail:〇〇〇@〇〇〇〇 *この申請書はPDFのメール送信でも提出できますが、その場合は乗船時に必ず本紙を持参してください。

* 乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合、練習船への乗船は許可しません。

* 乗船者名簿及び覚書を航海実施日の10日前までに提出願います。

上記の利用申請について、許可します。

令和 年 月 日

広島大学生物生産学部長

(公印省略)

附属練習船共同利用申請書(混乗航海)

広島大学生物生産学部長 殿

令和 年 月 日

利用代表者(申請者)

所属大学名等

学年・職名等

氏 名

印

(自署の場合は押印不要)

連絡先(電話番号)

Eメールアドレス

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。

なお、利用に際しては、乗船活動に関する保険加入を済ませ、広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設		附属練習船豊潮丸		
航海名(整理番号)		航海責任者		
利用希望者 (別紙添付可)	氏 名	所属機関・職名	加入保険の名称(必須)	乗船利用期間
使用観測機器	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器		申請者持込み予定の観測機器	
申請者所属機関 指導教員等連絡先			備考欄	
担当者氏名 (部署・職名) TEL Eメールアドレス	(印またはサイン)		*この申請書はPDFのメール送信でも提出できますが、その場合は乗船時に必ず本紙を持参してください。	

* 乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合、練習船への乗船は許可しません。

* 乗船者名簿及び覚書を航海実施日の10日前までに提出願います。

附属練習船共同利用申請書(混乗航海)

広島大学生物生産学部長 殿

令和〇〇年〇〇月〇〇日

記入例1
学生が個人で参加する場合

利用代表者(申請者)
所属大学名等 〇〇高等専門学校
学年・職名等 〇〇科 5年
氏 名 〇〇 〇〇 (自署の場合は押印不要) 印
連絡先(電話番号) XXX-XXX-XXXX(内XXXX)
Eメールアドレス 〇〇〇@〇〇〇〇

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。
なお、利用に際しては、乗船活動に関する保険加入を済ませ、広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設		附属練習船豊潮丸			
航海名(整理番号)		〇〇〇〇実習(XXXX)		航海責任者	〇〇 〇〇
利用希望者 (別紙添付可)	氏 名	所属機関・職名	加入保険の名称(必須)	乗船利用期間	
	〇〇 〇〇	〇〇高等専門学校 〇〇科 5年	学研災	R〇〇/O/O ~ R〇〇/O/O	
使用観測機器	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器		申請者持込み予定の観測機器		
	ORIネット 集魚灯		冷却装置 観察用プラスチックケース		
申請者所属機関 指導教員等連絡先				備考欄	
担当者氏名	〇〇 〇〇		(印またはサイン) 	*この申請書はPDFのメール送信でも提出できますが、その場合は乗船時に必ず本紙を持参してください。	
(部署・職名)	〇〇高等専門学校 〇〇科 教授				
TEL	XXX-XXX-XXXX				
Eメールアドレス	〇〇〇@〇〇〇〇				

- * 乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合、練習船への乗船は許可しません。
- * 乗船者名簿及び覚書を航海実施日の10日前までに提出願います。

附属練習船共同利用申請書(混乗航海)

広島大学生物生産学部長 殿

令和〇〇年〇〇月〇〇日

記入例2
教員が取りまとめて
学生を集団で参加させる場合

利用代表者(申請者)

所属大学名等
学年・職名等
氏 名

連絡先(電話番号)
Eメールアドレス

〇〇高等専門学校
教授

〇〇 〇〇
(自署の場合は押印不要)

印

XXX-XXX-XXXX(内XXXX)
〇〇〇@〇〇〇〇

下記のとおり「附属練習船豊潮丸」を利用したく申請します。
なお、利用に際しては、乗船活動に関する保険加入を済ませ、広島大学生物生産学部「附属練習船豊潮丸」における共同利用に関する規程その他の規則等を遵守します。

利用施設	附属練習船豊潮丸			
航海名(整理番号)	〇〇〇〇実習(XXXX)		航海責任者	〇〇 〇〇
利用希望者 (別紙添付可)	氏 名	所属機関・職名	加入保険の名称(必須)	乗船利用期間
	〇〇 〇〇	〇〇高等専門学校 〇〇科 5年	学研災	ROO/O/O ~ ROO/O/O
	〇〇 〇〇	〇〇高等専門学校 〇〇科 4年	学研災	ROO/O/O ~ ROO/O/O
	〇〇 〇〇	〇〇高等専門学校 〇〇科 3年	学研災	ROO/O/O ~ ROO/O/O
使用観測機器	附属練習船豊潮丸に搭載を希望する観測機器		申請者持込み予定の観測機器	
	ORIネット 集魚灯		冷却装置 観察用プラスチックケース	
申請者所属機関 指導教員等連絡先			備考欄	
担当者氏名 (部署・職名) TEL Eメールアドレス	〇〇 〇〇 〇〇高等専門学校 学生課教務係 XXX-XXX-XXXX 〇〇〇@〇〇〇〇		(印またはサイン) *この申請書はPDFのメール送信でも提出できますが、その場合は乗船時に必ず本紙を持参してください。	

* 乗船活動に関する保険加入の無い場合及び覚書の提出がない場合、練習船への乗船は許可しません。
* 乗船者名簿及び覚書を航海実施日の10日前までに提出願います。

67

練習船豊潮丸

乗船者名簿

申込責任者:

	氏 名	身 分 (職名・学年・学生番号)	性別	緊急時連絡先 (実家・父・母等 記入の事)	加入保険の名称	現住所・携帯電話番号
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

※ 学部外者については、「覚書」(別途様式4)を提出のこと。

※ 申込期限は出航の12日前まで。
 (食事代金＝朝:400円、昼:600円、夕:600円)

メールに添付する場合は、パスワードを掛けてください。

練習船豊潮丸

申込責任者:				広島大学の方 への質問です		広島大学 以外の方への質問です	
				TA又は実習生の確認		豊潮丸乗船歴の有・無	
	氏 名	身 分 (職名・学年・学生番号)	性別	TAは○を付けて ください	実習生は○を 付けてください	学生	学生以外
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
※ 学部外者については、「覚書」(別途様式4)を提出のこと。				0	0	0	0

※ 申込期限は出航の12日前まで。
(食事代金＝朝:400円、昼:600円、夕:600円)

練習船豊潮丸

申込責任者:

	氏 名	身 分 (職名・学年・学生番号)	性別	期間	乗下船地		/ 日			/ 日			/ 日			/ 日			/ 日			/ 日			/ 日			食 数	備考 (アレルギー等)				
				月日～月日	乗船～下船	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝			昼	夕		
1																										0							
2																										0							
3																										0							
4																										0							
5																										0							
6																										0							
7																										0							
8																										0							
9																										0							
10																										0							
11																										0							
12																										0							
13																										0							
14																										0							
15																										0							
16																										0							
17																										0							
18																										0							
19																										0							
20																										0							
※ 学部外者については、「覚書」(別途様式4)を提出のこと。								0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※ 学部外者については、「覚書」(別途様式4)を提出のこと。

※ 申込期限は出航の12日前まで。
(食事代金＝朝:400円、昼:600円、夕:600円)

令和 年 月 日

広島大学生物生産学部長 殿

覚書

令和 年 月 日から令和 年 月 日の間、豊潮丸乗船及び基地施設
使用の許可を得ましたが、乗船中及び基地施設使用中、自己の不注意により事故が生じ
た場合、身体上・財産上の損害補償については一切自己において責任を持ち、貴学に
ご迷惑をお掛けいたしません。

令和 年 月 日

名前 印

(自署の場合は、押印不要)

APPENDED FORM #4

Date(month/day/year)

The Dean of the Faculty of Applied Biological Science, Hiroshima University

Pledge

I,(name)_____, am allowed to ride on board of the Toyoshio Maru on (Date) , under the following conditions:

“I promise to take full responsibility on the compensation fees of any trouble/accident caused by my careless mistakes while being on board of the Toyoshio Maru, without causing any problems to your faculty at Hiroshima University.”

Date(month/day/year) : _____ Name:_____

Signature: _____

附属練習船基地(栈橋)利用申請書

広島大学生物生産学部長 殿

令和 年 月 日

利用代表者(申請者)

所属機関名

職 名

氏 名

印

(自署の場合は押印不要)

連絡先(電話番号)

Eメールアドレス

下記のとおり「附属練習船基地(栈橋)」の一時利用をいたす申請します。

なお、利用に際し、貴学の栈橋等構造物に損害を与えた場合は、賠償責任を負い、速やかに修復することを誓約します。

また、利用期間内であっても貴学から離岸の指示があった時は、速やかに出港し退避します。

利用施設	附属練習船豊潮丸呉基地(栈橋)							
利用目的								
船舶名称								
船舶諸元	全長	m	全幅	m	喫水	m	トン数	トン
船長氏名								
栈 橋 利用期間	自:令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 時 分頃入港予定 時 分頃出港予定							
備 考								
船舶 保険 加入 (必須)	船舶保険の名称	船舶保険の内容			申請者所属機関 緊急連絡先情報			
					担当者氏名 (部署・職名) TEL Eメールアドレス			

*1 この利用申請書は、pdfのメール送信で受け付けるものとする。

*2 船舶保険加入欄は、船舶保険証券の写しをpdfで送信することでも構わないものとする。

*3 国の機関の船舶が利用申請する場合、船舶保険加入欄の記載は不要とする。

*4 個人からの利用申請は原則認めない。(国等の公的機関からの要請があれば応じる)

*5 利用許可の可否は、豊潮丸船長から申請者に通知する。

附属練習船基地(栈橋)利用申請書

広島大学生物生産学部長 殿

令和〇〇年〇〇月〇〇日

記入例

利用代表者(申請者)

所属機関名

〇〇機構〇〇丸

職 名

船長

氏 名

〇〇 〇〇

印

(自署の場合は押印不要)

連絡先(電話番号)

XXX-XXX-XXXX

Eメールアドレス

〇〇〇@〇〇〇〇

下記のとおり「附属練習船基地(栈橋)」の一時利用をいたく申請します。

なお、利用に際し、貴学の栈橋等構造物に損害を与えた場合は、賠償責任を負い、速やかに修復することを誓約します。

また、利用期間内であっても貴学から離岸の指示があった時は、速やかに出港し退避します。

利用施設	附属練習船豊潮丸呉基地(栈橋)							
利用目的	台風〇号接近に伴い寄港地を変更するため、仮停泊場所として貴栈橋を利用したい。							
船舶名称	〇〇機構〇〇丸							
船舶諸元	全長	XX.X m	全幅	XX.X m	喫水	XX.X m	トン数	XXX トン
船長氏名	〇〇 〇〇							
栈 橋 利用期間	自:令和〇〇年〇〇月〇〇日 ～ 令和〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇時〇〇分頃入港予定 〇〇時〇〇分頃出港予定							
備 考								
船舶 保険 加入 (必須)	船舶保険の名称	船舶保険の内容			申請者所属機関 緊急連絡先情報			
	〇〇〇〇保険	船主責任保険(P&I保険)			担当者氏名	〇〇 〇〇		
					(部署・職名)	〇〇係・係長		
					TEL	XXX-XXX-XXXX		
					Eメールアドレス	〇〇〇@〇〇〇〇		

*1 この利用申請書は、pdfのメール送信で受け付けるものとする。

*2 船舶保険加入欄は、船舶保険証券の写しをpdfで送信することでも構わないものとする。

*3 国の機関の船舶が利用申請する場合、船舶保険加入欄の記載は不要とする。

*4 個人からの利用申請は原則認めない。(国等の公的機関からの要請があれば応じる)

*5 利用許可の可否は、豊潮丸船長から申請者に通知する。

3. 豊潮丸の共同利用の概要

(1) 取組の趣旨・目的

本事業は、教育関係共同利用拠点としての広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸（以下「豊潮丸」という。）の効率的かつ効果的な拠点運営を支援することを目的としており、その目的を達成するために、共同利用校の拡張、教育プログラムの充実化と開発、ならびに教育設備の充実化など、瀬戸内海における里海教育の中核として豊潮丸が機能するための支援環境の整備を行い、我が国の直面する水産・環境問題、社会経済問題、および島嶼部の文化・歴史的背景に精通した人材を育成することを目標とする。

これまでも豊潮丸では、学外の学生を対象とした教育航海を通じて「瀬戸内海における人と海の関わり」と「瀬戸内海的环境としての特異性」について、水産学、海洋学、生物学、歴史民俗学、文化人類学等の多様な切り口からの理解を進め、里海がもたらす恵みとその豊かさを、実感として理解させる教育活動の実践を進めてきた。本事業は、そのような他大学に属する海洋に興味を持つ学生が航海実習・演習に正規の科目として参加できる教育機会をさらに拡張・充実化させ、大学間共同利用体制を強化することを目指すものである。

人間が里海から受ける恩恵によって成り立ってきた文化・歴史的背景や、第一次産業構造、沿岸の人間活動や開発が里海的环境および生態系に与えた影響などの諸問題を現場で理解させるフィールド教育は、一般社会人として身に付けておかねばならない海洋基本法が謳う理念の啓蒙の推進、海洋基本計画が求める人材の育成に大きく貢献しうるものである。

さらに「里海」というキーワードの下、他大学他分野の学生の専門教育の場としての意義もある。工学や環境学などの理系分野に加えて、農漁村学・ツーリズムといった社会経済学的な分野の学生にも洋上教育の場を提供することも積極的に推進し、一人一人の学生に多様な問題意識を惹起せしめることも期待できる。

また、乗船経験を経た学生にとっては、豊潮丸で過ごす数日間の洋上体験は一生の思い出となるだけでなく、その結果、水産学・海洋学そして練習船に対する良き理解者になることは間違いない。混乗による実習では複数の大学の学生が乗り合わせて、共同作業をすることにより、参加学生の視野が広がるだけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。一方、他大学の下級生を指導する立場の本学学生にとっても、自らの専門的知識と技術の向上にはげみ、リーダーシップを培うことができる。このように、練習船ゆえの教育効果を広く供与しうることもつながる。

加えて、身近な海洋環境の多様な魅力を引き出そうとする本事業の里海教育は、フィールド教育に於ける大学間連携の新たなモデルとして注目しうるものとなるはずである。

(2) 拠点の認定理由

広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸は、平成24年7月31日付け24文科高第403号により、学校教育法施行規則第143条の2に基づき、「教育関係共同利用拠点」に認定されたものである。

教育関係共同利用拠点名は「瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点」、認定の有効期間は「平成24年7月31日～平成29年3月31日」である。

「教育関係共同利用拠点の認定等に関する規定（平成21年8月20日文科省告示第155号）」第2条に規定されている次の認定基準を満たすものとして認定された。

第2期、平成28年7月29日付け28文科高第456号により、「教育関係共同利用拠点」に再認定された。認定の有効期限は「平成29年4月1日～平成34年3月31日」である。

第3期、令和3年7月30日付け3文科高第465号により、「教育関係共同利用拠点」に再認定された。教育関係共同利用拠点名は「人と海の持続的共存・発展を目指したOn-ship里海教育 共同利用拠点」、認定の有効期限は「令和4年4月1日～令和9年3月31日」である。

【教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程（抜粋）】

（認定の基準）

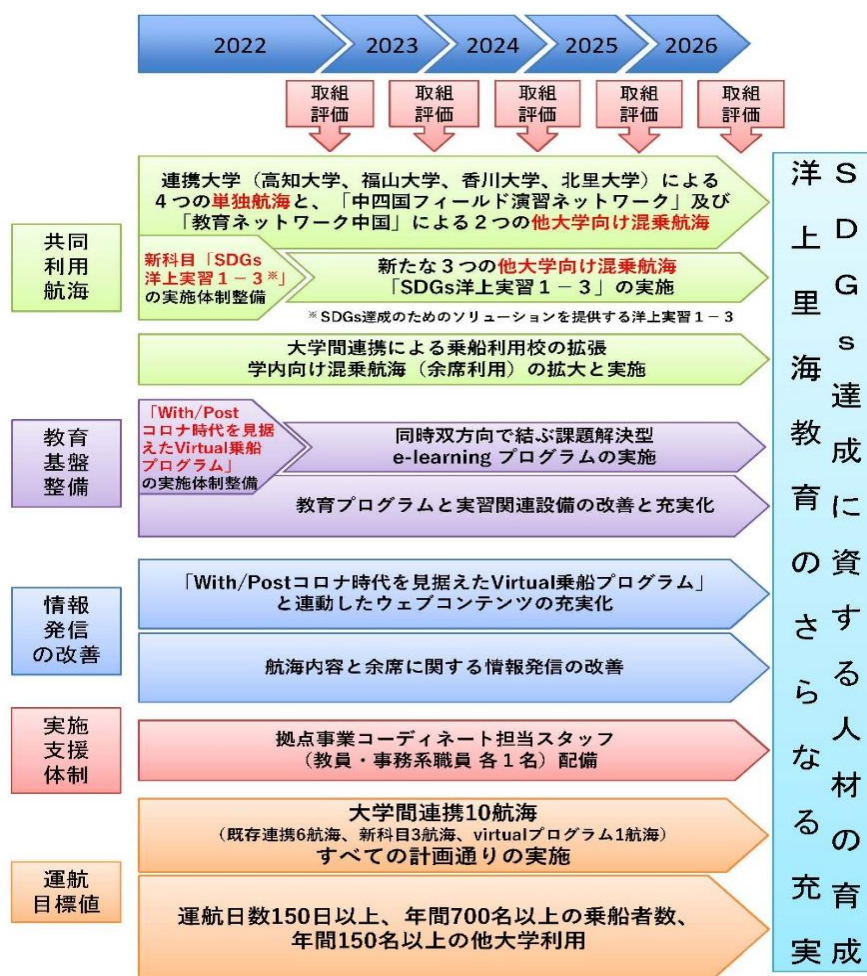
第2条 規則第143条の2第2項に規定する教育関係共同利用拠点（以下「拠点」という。）の認定の基準は次のとおりとする。

- (1) 学生に対する教育，学生の修学等の支援，教育内容及び方法の改善その他大学における教育に係る機能を有する施設であって，大学教育の充実に特に資すると認められるものであること。
- (2) 拠点の認定を受けようとする施設（以下「申請施設」という。）が，他の大学の利用に供するものとして大学の学則その他これに準ずるものに記載されていること。
- (3) 申請施設の運営について権限を有する者の諮問に応じ，共同利用の実施に関する重要事項について審議する機関として，次に掲げる委員で組織する委員会（この条及び次条において「運営委員会」という。）を置き，イの委員の数が運営委員会の委員の総数の2分の1以下であること。
 - イ 当該申請施設の職員
 - ロ 当該共同利用に係る事項に関し学識経験を有する者
 - ハ その他申請施設の運営について権限を有する者が必要と認める者
- (4) 申請施設を利用する大学を広く募集するものであること。
- (5) 申請施設の種類等に応じ，共同利用に必要な設備及び資料等を備えていること。
- (6) 申請施設を利用する大学に対し，申請施設の利用に関する技術的支援，必要な情報の提供その他の支援を行うための必要な体制を備えていること。
- (7) 申請施設の利用の方法及び条件，利用可能な設備及び資料等の状況，申請施設における教育の成果その他の共同利用に関する情報の提供を広く行うものであること。
- (8) 申請施設の種類等に応じ相当数の大学の利用が見込まれること。

(3) 取組計画

練習船豊潮丸では、平成24年に「教育関係共同利用拠点」（以下「教育拠点」）の認定を受けたことを契機に、広大な「里海」である瀬戸内海の中央部に位置する利点を生かし、海洋環境や水産生物の生産過程ならびに「里海」と沿岸住民との持続的共存に関する学習の機会を、全国の大学および高等専門学校等に提供するための教育機能および行動利用体制を強化させる取り組みを進めてきた。

そこで本事業では、共同利用を推進させるこれまでの取り組み事業を基盤として維持・継承しつつ、他大学などの学生の乗船機会を拡大させ、学生一人一人の個性を伸ばし得るような発展的学習の機会を提供する教育拠点としての新展開を目指す。具体的には、1) 年間150日を超える運航実績（整備航海を除く）、2) 年間約700名の乗船者、3) すべての大学間連携航海（単独航海と他大学向け混乗航海）の計画通りの実施、4) 年間150名を超える他大学利用、の4点を従来と同様に維持させつつ、5) 他大学学生の乗船機会の拡大と、より高度な学習機会を求める再乗船学生（学習リピーター）への対応を主眼に置いた取り組みを進める。



(4) 実施体制

豊潮丸の管理運営、船員の人事、予算・決算など運営に関する必要事項については、豊潮丸の船長と支援室長および学部教員 6 名から構成された「豊潮丸運営委員会」が、共同利用に関しては、学内委員 4 名、学外委員 4 名からなる「豊潮丸共同利用運営協議会」がそれぞれ審議・決定している。

豊潮丸には、船長以下、3 名の航海士、機関長、2 名の機関士および機関員、甲板長、甲板員、司厨長の、合計 11 名の船員が配置されている。このうち、1 名は海事職教員（船長：准教授）である。演習・実習の教育に際しては、海事職教員 1 名の責任の下、豊潮丸船員が中心となり、観測調査作業、海洋生物採集作業等の指導にあたる。

連携教育機関が実施する単独航海については、利用大学の引率教員、海事職教員が共に教育指導にあたる。残りの豊潮丸船員が利用大学の教員・学生の教育・実習の支援を行う。

また、広島大学が主催し学外学生を対象とした混乗航海「里海フィールド演習」、「飢餓・貧困解決を目指したグローバル洋上演習」、「Blue Growth を目指したオーダーメイド洋上演習」、「里海再生のための陸～川～海パートナーシップ策に関する演習」および「瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習」では、生物生産学部専任教員が、豊潮丸船員と共に実習の指導にあたる。

共同利用に係る航海で女性乗船者が参加した際には、船長及び航海代表者の要請に基づいて女性教員、女性コーディネーター、または乗船経験の豊富な女性 TA を配置する。豊潮丸の運航および共同利用に関する事務は、生物学系総括支援室が一括して管理する。



24文科高第403号
平成24年7月31日

広島大学

学長 浅原 利正 殿

文部科学大臣 平野 博文



教育関係共同利用拠点の認定について（通知）

学校教育法施行規則第143条の2に基づき、貴学の「広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸」を、下記により「教育関係共同利用拠点」に認定します。

なお、教育関係共同利用拠点審査委員会等における審査において、下記3のとおり意見がありましたので、今後の拠点活動の参考としてください。

記

1. 教育関係共同利用拠点名

「瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点（広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸）」

2. 認定の有効期間

平成24年7月31日～平成29年3月31日

3. 特記事項

これまでの共同利用の実績や多数の利用が見込まれる点は評価できる。
瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点としての今後の活動を期待する。

28文科高第456号

平成28年7月29日

広島大学

学長 越智 光夫 殿

文部科学大臣 馳 浩



教育関係共同利用拠点の認定について（通知）

学校教育法施行規則第143条の2の規定に基づき、貴学の「生物生産学部附属練習船豊潮丸」を、下記により「教育関係共同利用拠点」に認定します。

なお、教育関係共同利用拠点審査委員会等における審査において、下記3のとおり意見がありましたので、今後の拠点活動の際に留意してください。

記

1. 教育関係共同利用拠点名

「瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点（生物生産学部附属練習船豊潮丸）」

2. 認定の有効期間

平成29年4月1日 ～ 平成34年3月31日

3. 特記事項

教育関係共同利用拠点としての活動を行うにあたっては、以下の点に留意されたい。

- (1) 近年の全受講者に占める女子学生の割合等の増加を踏まえると、女性の施設利用に支障がない環境の充実が求められる。そのため、運営委員会の女性委員比率を高め、女性に配慮した環境づくりに一層努めることが望まれる。
- (2) 運営委員会等での議論を踏まえた教育の質向上に資する取組については、その成果を積極的に広報し、教育関係共同利用拠点の充実に努めること。

以上

広島大学長 殿

文部科学大臣 萩 生 田 光 一

教育関係共同利用拠点の認定について（通知）

学校教育法施行規則第 143 条の 2 の規定に基づき、貴学の「広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸」を、下記により「教育関係共同利用拠点」に認定します。

なお、教育関係共同利用拠点の認定等に関する有識者会議等における審査において、下記 3 のとおり意見がありましたので、今後の拠点活動の際に留意してください。

記

1. 教育関係共同利用拠点名

「人と海の持続的共存・発展を目指した On-ship 里海教育 共同利用拠点」

2. 認定の有効期間

令和 4 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日

3. 特記事項

女性乗船者に配慮し、女性教員を運営委員会委員長および共同利用運営協議会議長とし、女性乗船者がより利用しやすい船内環境の整備を進めている点は評価できるが、船内での配慮を充実するために乗組員として女性を配乗することや、乗組員として女性が確保できないのであれば、女性教員が乗船してサポートする体制をより強化することが望まれる。

【本件担当】

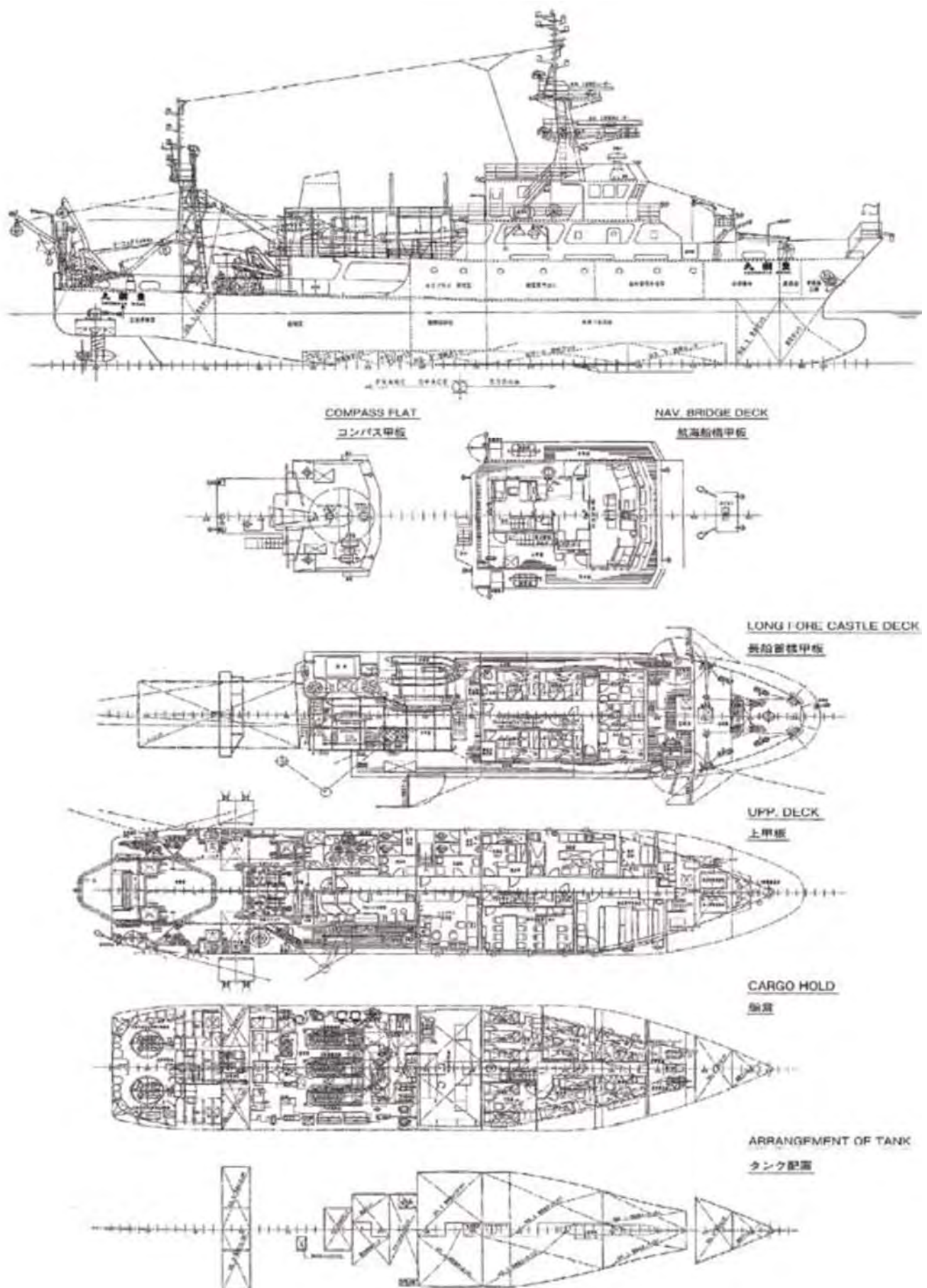
文部科学省高等教育局大学振興課
大学改革推進室学務係（木俣）
電話：03-6734-3334（直通）
03-5253-4111（内線 3334）
E-mail：daikaika@mext.go.jp

(2) 主要目 Ship specifications

船舶番号 Official Number	第 140428 号
信号符号 Call sign	7JBU
漁船登録番号 Registry number of fishing vessel	HS1-24
船種 Type of Vessel	汽船 Motor Vessel
用途および従業制限 Service and fishing restriction	漁業練習船, 第三種船 Fisheries training vessel, Category 3
IMO 番号 International Marine Organization number	IMO9384423
船級 Classification	JG
船質 Material of Hull	鋼 steel
所有者 Owner	国立大学法人広島大学 Hiroshima University
船籍港 Port of Registry	広島県呉市 Kure, Hiroshima
長さ (全長) Length Over All	40.50m
長さ (垂線間長) Length between Perpendiculars	35.50m
幅 (型) Breadth(mid)	8.50m
深さ (型) Register Depth(mid)	3.71m
満載吃水 Full load Draft	3.1m
総トン数 Gross Register tonnage	256t
航海速力 Service speed	10 ノット (時間/海里) knots
航続距離 Endurance	2900 海里 nautical miles
航行区域 Navigation area	第3種 (A2水域であってNAVTEX水域に限る)
航海日数 Endurance	10 日 days
最大搭載人員 Complement	船員 12 名, 教員 2 名, 学生 18 名, 計 32 名 Officers and Crew members 12P, Professors 2P, Students 18P, Total 32P 臨時定員 (平水区域 6 時間未満) 62 名 Special regular number, in Heisui area, designated pursuant to Ordinance for Enforcement of the Ship Safety Act, no longer than 6 hours , Total 62P
燃料油槽容積 Fuel oil tank	71.2 m ³
水槽容積 Fresh water tank	41.6 m ³

発電機関 Engine for generators	立形単動直列 6 気筒 4 サイクル過給機空気冷却器付ディーゼル機関 441kW(600PS)×1200RPM 3 台 6 cylinder 4 cycle diesel engines have vertical single series with turbo charger & air cooler 441kw(600PS)×1200rpm×3sets
発電機 Generator	防滴自己通風型片軸受自己給油式ブラシレス交流発電機 400kW×450V×60Hz 3 台 Self-oiling brushless alternative generators have one side bearing with water proof & self-air draft 400kW×450V×60Hz×3sets
推進電動機 Propulsion motors	全閉防まつ形水冷空気冷却器付自己通風形 船用三相誘導電動機 2 台 405kW／55kW×1180RPM／585RPM All mounting close 3 phase electric motors for ship have water proof & self-air draft through water 405kW／55kW × 1180RPM／585RPM×2sets
推進機 Propulsion system 	全旋回式縦軸型推進機（プロペラ回転方向：船尾より見て内回り） 2 台 プロペラ回転数：245RPM （入力軸回転数 1180RPM のとき） プロペラ直径：1900mm （ハイスキュード可変ピッチプロペラ） 360 ° Rotating-2axis-vertical propulsion system × 2sets： Inside rotation Propeller revolution:245rpm （Input axis revolution: 1180rpm） Propeller diameter:1900mm （High-skewed 3 blades variable pitch）
無線装置 Wireless equipment	国際 VHF 2 台 Match for A1, A2, A3 GMDSS, International VHF×2
船舶電話 Ship telephone	沿岸用衛星船舶電話 1 台 090-3022-4347 Coastal satellite telephone ×1
竣工年月日 Date of delivered	平成 18 年 11 月 29 日 Nov.29,2006
造船所 Builder	三井造船株式会社 Mitsui Engineering & Shipbuilding Co., Ltd.

一般配置図 General arrangement



航海区画 Navigation/chart space

航海に関する操作・監視設備を集約している。操縦盤で推進装置, 可変ピッチプロペラを操作する。海図室区画に船舶電話を設置している。

< 航海設備 >

マグネットコンパス (投影式)	Magnet compass (Projection formula)	R165A	布谷船用 計器工業
ジャイロコンパス	Gyro compass	TG-8000	東京計器
サテライトコンパス	Satellite compass	SC-110	古野電気
レーダ S バンド	Radar S-Band with ARPA	FAR-2127-20AF	古野電気
レーダ X バンド	Radar X-Band with ARPA	FAR-2137S-30AF	古野電気
DGPS 航法装置	Differential global positioning system navigator	GP-150	古野電気
電子海図	Electronic chart display and information system	EC-7000	古野電気
自動気象観測装置	Automatic weather observation system		ANEOS
国際船舶自動識別装置 (AIS)	Automatic identification system	FA-150	古野電気
音響測深器	Navigational echo sounder	FE-700	古野電気
デジタル水温計	Digital water temperature indicator	TI-20	古野電気
船舶用水晶親時計装置	Marine crystal master clock	TXS-12S	古野電気
電磁ログ	Electromagnetic log	EML500	YOKOGAWA
カラー魚群探知機	Color video sounder	FCV-1500L	古野電気
カラスキャニングソナー	Color scanning sonar	FSV-30	古野電気
高性能魚群探知機	High performance video sounder	FCV-30	古野電気



機関区画 [Engine room](#)

機関制御室及び機関室並びに主推進機室を有し、機関室に設置された自動制御発電機 3 台により推進用電力をはじめ船内の全ての電力需要に応じた電力を供給し、各発電機関の最適負荷にて運航する。機関室や機関制御室においては、発電機関や推進装置をはじめ全ての機器において始動停止操作及び制御を行うことができ、機関制御室ではデータロガーによる各機器の温度・圧力等の計測・監視・記録を行なうとともに、統合制御システムによる推進機を含めた機関部全般機器の制御を行う。また、主配電盤により、各発電機の周波数・電圧の制御ならびに並列運転・負荷分担や、負荷状態に合わせた自動始動・停止を行うことができる（パワーマネジメント）。主推進機室には電気推進装置が設置され、全旋回式縦軸型推進機が推進電動機により駆動される。

<機関設備>

発電機関 3 台	Engine for generator 3sets	6NY16L-EN	ヤンマー
発電機 3 台	Generator 3sets	NTAKL-VEK	西芝電機
推進電動機 2 台	Propulsion motor 2sets	NTIKE-RCK5	西芝電機
推進機 2 台	Propulsion system 2sets	KST-130ZC/ADN	川崎重工業
クラゲ除去装置 1 式	Jellyfish removal system 1set	JF-140	菱洋産業
油水分離器 1 式	Bilge separator system 1set	USH-03	大晃機械工業
海洋生物付着防止装置 1 式	Marine life exclusion system 1set		アタカ大機
機関部統合制御システム 1 式	Engine central control system 1set		JRCS



機関制御室/[Engine control room](#)



発電機関/[Engine for generator](#)



推進装置/[Propulsion system](#)



クラゲ除去装置/[Jellyfish removal system](#)

無線区画 Radio space

無線に関する操作, 監視設備を集約している. また, 全球海上遭難・安全システム (GMDSS: [Global Maritime Distress and Safety System](#)) 対応の設備を設け, 通信機能の効率化を図っている.

< 無線設備 >

国際 VHF 無線電話装置	Marine VHF radio telephone	JHS-32B	JRC
ナブテックス受信装置	Navigation telex	NCR-333	JRC
衛星用 EPIRB	Emergency position indicating radio beacon	JQE-3A	JRC
双方向無線電話装置	Two-way VHF transceiver	JHS-7	JRC
レーダートランスポンダ	Search and rescue radar transponder	JQX-30A	JRC



無線区画－1／[Radio equipment area-1](#)



無線区画－2／[Radio equipment area-2](#)

漁労及び観測支援設備 Fishery and oceanographic research support systems

CTD ウインチ	CTD winch	1 set	8.1mm ϕ $\times$ 2000m	ダイナコン 10030
船首観測ウインチ	Fore part survey winch	1 set	6.0mm ϕ $\times$ 1000m	川崎プロレシジョンマシナリ
曳網ウインチ	Trawl winch	2 sets	12mm ϕ $\times$ 2000m	川崎プロレシジョンマシナリ
観測ウインチ	Oceanographic survey winch	1 set	3.0mm ϕ $\times$ 1500m	川崎プロレシジョンマシナリ
起倒式 A フレーム	A-frame for survey	1 set		川崎プロレシジョンマシナリ
起倒式ランプドア	Ramp door	1 set		川崎プロレシジョンマシナリ
船首観測ダビット	Fore part survey davit	2 sets		川崎プロレシジョンマシナリ
CTD クレーン	CTD crane	1 set	HIAB 081	HIAB
魚網監視装置	Fishing net watch system	1 set	SCANMAR	日本海洋



CTD ウインチ／CTD winch



船首観測ウインチ
／Fore part survey winch



曳網ウインチ／Trawl winch



観測ウインチ
／Oceanographic survey winch



起倒式 A フレーム及び起倒式ランプドア
／A-frame and Ramp door for survey



船首観測ダビット
／Fore part survey davit



CTD クレーン
／CTD crane

調査研究設備 Research equipment

C T D測定装置（多筒採水器付）	CTD octopus system and water sampling bottles	SBE- 9plus, SBE- 11 plus 10L×12 本	EMS
多層式超音波流速計	Acoustic Doppler current profiler	Teledyne Instruments WHD300kHz	RD HSD
表層連続観測装置	Surface CTD self-recorder	SEB-45, BBE 社 AOA	日本海洋
海底地形探査装置	marine topography profiling system	HS-600	古野電気
船内 LAN システム	Ship LAN system	JEE ソルデック	日本海洋
水中テレビカメラ装置	Underwater TV vehicle	RTV-100MK II	三井造船
実体顕微鏡	Actual objects microscope	ZEISS Stemi 2000	日本海洋
ダイビング用空気圧縮機	Diving air compressor	田邊空気機械製作所 V-11	日本海洋
生物飼育水槽 2 個	Aquarium for keeping live samples ×2 sets	250 リットル WTCA-401L	日本海洋
試料保存用冷凍冷蔵庫	Storage freezer for experimental substances	SJ-54H-S	SANWA
低温恒温器	Incubator	FLT-15	日本海洋
バンドン採水器	Van-Dorn water bottle	10L×2 本	離合社
スミスマッキンタイヤ採泥器	Smith-Macintyre sediment grab sampler	小型 0.05m ² , 中型 0.1m ²	離合社
エクマンバーヂ採泥器	Ekman-Berge sediment sampler	小型 0.02m ² , 大型 0.04m ²	離合社
小型簡易ドレッジ	Dredge	0.5m×0.2m	離合社
G.S.型表層採泥器（アシュラ）	G.S.type core sampler (ASYURA)	柱状採泥器×3 本	離合社
鉛直多層式開閉ネット	Vertical multiple plankton net	VMPS1000	鶴見精機
表中層プランクトン採集網	Surface-mid layer plankton net	LCP-003	ニチモウ
表中層稚魚採取網	Plankton and larva net	LC-20M-SMR	ニチモウ
底魚採集底曳網	Kite type trawl net	LC-V1	ニチモウ
ビームトロール（桁網）	Beam trawl net		
ニューストーンネット	Neuston net		
アイザックキッド	IKMT net		
ORI ネット	Ocean Research Institute net		
ソリネット	Sled net		



CTD 測定装置（多筒採水器付）
/ CTD octopus system /
and water sampling bottles



水中テレビカメラ装置
Underwater TV vehicle



セミドライ研究室／Laboratory (semi dry)



ウェット研究室／Laboratory (wet)

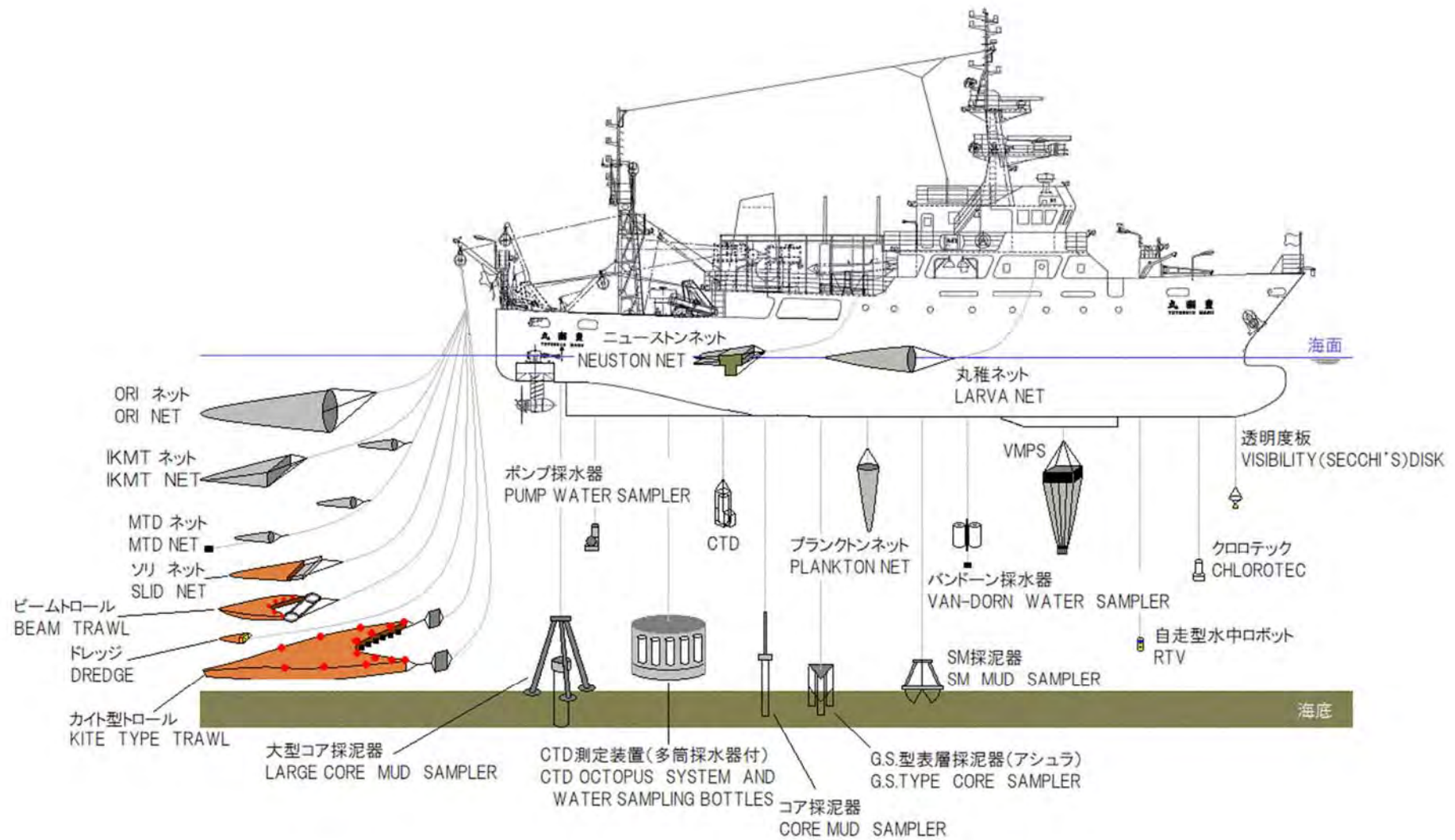


映像配信装置／Television image transmitter system



船内情報指示装置
／Monitoring system for ship information

海洋調査機器概略図 Oceanographic instruments



生活環境設備 Living quarters



教室兼学生食堂／Student lecture and mess room



船員食堂／Crew mess room



教員室／Professor's room



学生室／Student room



調理室／Galley

広島大学生物生産学部附属練習船基地

〒737-0029 広島県呉市宝町 7 番 4 号

Kure Marine Station

School of Applied Biological Science, Hiroshima University

7-4, Takara-machi, Kure, Hiroshima, 737-0029 JAPAN

TEL:0823-23-4853 FAX:082-553-0237

URL: <https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp>

附属練習船豊潮丸

Training and Research vessel TOYOSHIO MARU

TEL:090-3022-4347 FAX:082-553-0237

URL: <https://toyoshio.hiroshima-u.ac.jp>

広島大学 東広島地区 運営支援部

生物学系総括支援室

〒739-8528 広島県東広島市鏡山一丁目 4 番 4 号

TEL : 082-424-7904 FAX : 082-424-7947

URL: <https://www.hiroshima-u.ac.jp/seisei>

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/ilife>